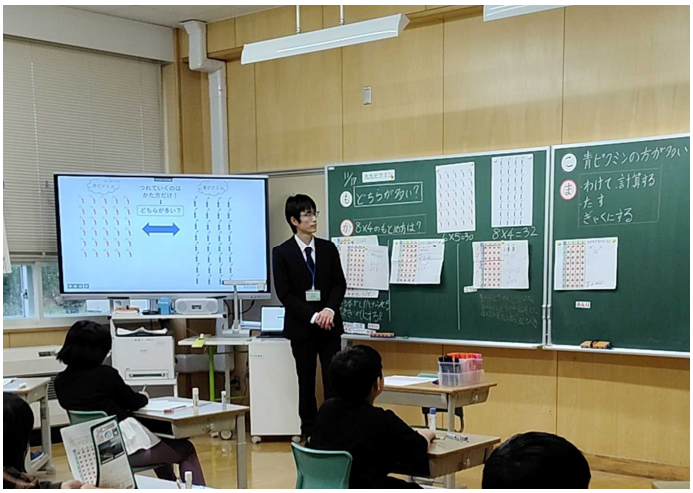
令和5年度教育研究活動促進事業（北海道教育委員会）

研究紀要（4 年次報告）NO.98

学習指導に関する調査研究委員会

授業力の向上と校内研究の活性化

～ 学 び に 向 か う 力 の 育 成 を 通 し て ～



指導案バンク QRコード

令和６年３月

後志教育研修センター

序

『 難しいことは易しく、
易しいことは重たく、
そして広く 』
(6)

～使えて、役に立つ調査研究
を目指して～

Society5.0の到来や人口減少社会、グローバル化の進展などにより、社会情勢が激しく変化する時代に突入している。そのような中、次代を担う子どもたちには、夢や希望を持ち、様々な困難を乗り越え、多様な人々と協働しながら持続可能な社会の創り手となる資質・能力が求められている。

当センターでは北海道教育研究所連盟第18次共同研究『一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて』を主題とする共同研究推進計画に参画し、『授業力の向上と校内研究の活性化～学びに向かう力の育成を通して～』を研究主題として、4年次研究の最終年次にあたる研究を推進してきた。

研究委員会では子どもたちの学びに向かう力の育成に向けて、①所員が担当する３つの研修講座、②検証授業の実施、③しりべし指導案バンクの３つの柱を基に、教職員の授業改善と校内研修の工夫・改善に関する研究を深めてきた。

特に、寿都小学校を会場に開催した検証授業ではセンターが推奨している板書型指導案の活用、また単元計画を作成することによる単元を貫く課題とゴールの設定の仕方、更には学びの最適化に生かすICT活用について検証することができた。

調査研究の中間報告という位置づけされる調査研究事業報告会は当日参加も含めて管内から75名の参加を得た。今回の大きな成果の一つに、教諭の先生方が半数以上を占め、研究協議での発言は全てこの先生方であったことがあげられる。会場での大きな熱量を感じ取ることができた。

また、アンケート結果から昨年度は管内で認知が低かった指導案バンクと板書型指導案が着実に、学校や一般の先生方に広まりつつあることも実感した。研究紀要やリーフレットに指導案バンクのQRコードを入れたので、より身近で使いやすくなっているのではないかと推察する。

当センターの調査研究の内容を小樽・後志の教職員が「なるほど」と理解し、「この位なら自分もやってみよう」という気持ちになってくれることを願う。その後、実際に各学校で使ってみて、その成果はどうであったのか検証され、最終的には子どもたちへ還元されることが一番大切なことである。そこで初めて当センターの調査研究の価値が生まれることになる。

結びになるが、所員を支えてくれた校長先生、そしてご指導いただいた北海道教育庁後志教育局、教育関係機関の皆様に厚く感謝申し上げ、発刊の言葉とする。

後志教育研修センター
所長　長谷川　　誠

令和6年3月

目　　次

◇序　　後志教育研修センター　所長　　長　谷　川　　誠

学習指導に関する調査研究委員会

【第１章】　研究の概要

【担当：森・菊地（勇）】

１　研究主題および副主題……研究の概要－１
２　主題設定の理由……研究の概要－１～２
３　研究仮説……研究の概要－３
４　研究の視点……研究の概要－３
５　研究計画……研究の概要－４～５
６　研究構造図……研究の概要－６
７　調査研究委員の経過報告……研究の概要－７

【第２章】　研究の内容

Ⅰ　研修講座

「校内研修」から　【担当：板垣・大塚・橋谷】

１　研究主題解決に向けて……校内研修－　１～　２
２　「学びに向かう力」研修パッケージの提案……校内研修－　２～１３
３　成果と課題……校内研修－　１４

「学習指導（授業づくり）」から　【担当：中村・山本・輪嶋】

１　一単位時間の授業づくり（小学校）……授業づくり－　１～６
２　成果と課題……授業づくり－　６

「学習指導（授業改善）」から　【担当：千葉・菊地（洋）・工藤】

１　主体的・対話的で深い学びにむけた授業改善の視点……授業改善－　１～　２
２　授業実践……授業改善－　３～　４
３　協議・交流から、受講者アンケートから……授業改善－　５

Ⅱ　検証授業について……検証授業－１～１４

Ⅲ　指導案バンクについて……指導案バンク－　１～　４

【第３章】　研究の成果と課題

◇あとがき

【第１章】

研究の概要

<第１章>研究の概要

１．研究主題および副主題

授業力の向上と校内研究の活性化
～学びに向かう力の育成を通して～

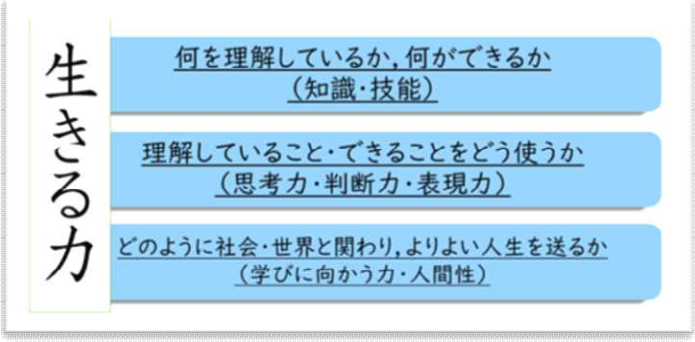
２．主題設定の理由

（１） 子供たちの生きる社会

日々、急速な変化を遂げている現代社会。今の子どもたちが成人する頃には、現在ある職業が AI に置きかわるなど、社会構造が大きく変わることが予測されている。内閣府の第５期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として Society5.0 が提唱された。今を生きる子供たちが、多様な人々と協働しながら、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な未来社会の造り手となるために必要な能力、すなわち。「生きる力」を確実に育てることが学校教育で急務となっている。

（２）求められる「生きる力」

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申においては、「生きる力」に関して言及された。新しい時代に必要とされる資質能力は、右の①【知識・技能】、②【思考力・判断力・表現力】、③【学びに向かう力・人間性】の３つの柱に整理された。学習指導要領でも、３つの柱で整理される形で、その内容が改訂された。令和２年度には小学校、令和３年度には中学校で全面実施され、各学校の教育課程の中で実現が求められている。

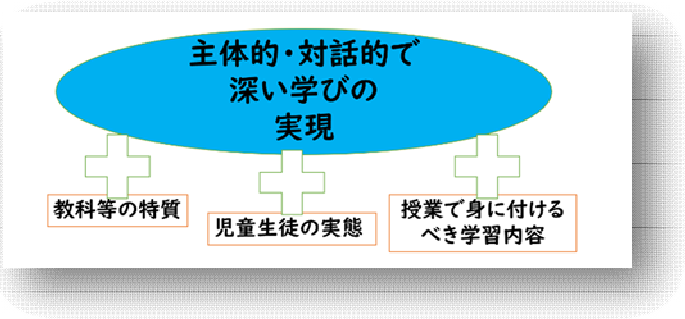


（３）「学びに向かう力」とは

この３つの柱のうち、特に、③【学びに向かう力、人間力等】に整理される情意や態度に関わる資質・能力は、知識・技能や思考力・判断力・表現力をどのような方向性で働かせているかを決定づける重要な要素であるとされている。例えば、ベネッセ教育総合研究所では、【学びに向かう力】を右の「好奇心」「自己主張」「協調性」「自己抑制」「がんばる力」の５つの項目に整理している。これらの資質・能力は、「メタ認知」に関わる力を含むものであるとされる。

（４）主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

中央教育審議会答申には、学びに向かう力などの資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。授業づくりにおいては、教科等の特質を踏まえ、それぞれの授業で身に付けるべき学習内容や目の前の児童生徒の実態に応じて、これらの視点を手掛かりに、質の高い授業を実現することが求められる。



【主体的な学び】‥学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

【対話的な学び】‥子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ，自己の考え方を広げ深める。

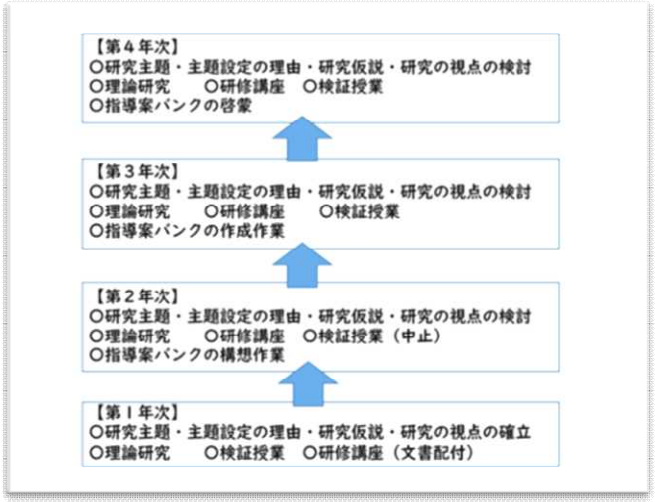
【深い学び】‥‥‥各教科等で習得した概念や考え方を活用したり、「見方・考え方」をはたらかせ問いを見出したり、解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする。

（５）指導と評価の一体化

主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善のために、学習評価の工夫改善も求められている。学習評価の在り方は、児童生徒の学習の成果を的確に捉え、教師が授業の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも重要である。学習の過程や成果を適切に評価することは、学習指導の改善や学習意欲の向上を図るために不可欠なものである。

（６）研究の方向性

将来、成人した児童生徒が未来社会を力強く生き抜いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、他と関わり合い学び合う中で、新たな価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力が必要とされる。そのような力を育成するためには、質の高い授業の実践が不可欠である。これらを踏まえ、後志教育研修センター調査研究委員会では、「授業力の向上と校内研修の活性化 ～学びに向かう力の育成～」という研究主題のもと，4年次計画4年目の研究推進に取り組んでいく。特に、見通しを持てる単元構成や課題設定の在り方、板書型指導案を活用した１単位時間の授業づくりについて研究・推進を行うとともに、後志管内各校に組織的・計画的な校内研修の進め方の指針を提案していく。さらに、今年度は、これまで構想してきた指導案バンクを始動させ、様々な授業実践を後志管内の先生方に広めていく役割を担いたい。



３．研究仮説

《仮説１》児童生徒の学びに向かう力を育成する学習活動の実現を目指す授業改善の指針を示すことで、後志管内各校の校内研究推進のニーズに応えることができる。

学びに向かう力は、主体的・対話的で深い学びを通して、育成されるであろう。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を促進するためには、各校、あるいは、個々の教員が参考にできるよう、具体的な授業改善の指針を示すことが有効であると考える。目指す学びを具現化した児童生徒の学びの姿として示すことで、より分かりやすいものになる。具体的で明瞭な指針が示され、校内研究で活用されれば、個々の教員の授業改善も進み、より多くの教室でより質の高い授業を実現できると考える。

《仮説２》組織的・計画的な校内研究体制の確立、管内連携を目指した指導案バンクの作成を推進することで、協働性と個々の資質・能力の向上を図ることができる。

教員の資質･能力に関する中央教育審議会答申(平成２７年１２月)では､「教員は学校で育つもの」とされ、同僚の教員とともに学び合う校内研修の充実や、自律的、主体的に行う研修の重要性とそれらに対する支援の必要性が指摘されている。組織的・計画的な校内研究体制を確立することで、各校での校内研修が活性化すると考えられる。また、いつでもどこでも誰でもが利用できる指導案バンクの実現によって、自主的な研修の充実の促進を図ることができる。個々の教員の必要性に応じて活用できるコンテンツは、「教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員」（北海道における「求める教員像」）に必要とされるものである。

４．研究の視点

《視点１》学びに向かう力を育成するための授業改善

- ●主体的･対話的で深い学びを目指した授業**【研修講座「学習指導（授業改善）」】**
- ●若手教員のための１時間の授業づくり**【研修講座「学習指導（授業づくり）」】**
- ●センター所員の所属校での検証授業の実施

《視点2》実践的指導力の向上を図るための教職員研修の工夫･改善

- ●組織的な校内研究体制の確立とワークショップ型研修の推進**【研修講座「校内研修」】**
- ●管内連携を目指した指導案バンクの作成

【参考文献】
○内閣府 HP 「科学技術政策」 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/, 2023 年１月閲覧
○ベネッセ教育総合研究所 HP 「まなびのかたち 【学びに向かう挑戦】」「幼児期の家庭教育国際調査」 https://berd.benesse.jp/special/manabi/manabi_22.php, 2023 年１月閲覧
○文部科学省 小学校学習指導要領解説総則編, 平成 29 年７月
○吉冨芳正編著『「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり』ぎょうせい, 2017 年
○北海道教育委員会「北海道における教員育成指標」, 2019 年３月

５．研究計画

（１）年次計画と実際

【第４年次】令和５年度（２０２３年度）「まとめの１年」

○「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検討
○理論研修と資料収集により，具現化した授業構築の提案
○検証授業
○研修講座「学習指導（授業づくり・授業改善）」「校内研修」の資料作成・講座の運営
○指導案バンク整理作業
○調査研究事業報告会に向けた準備、発表研究紀要・パンフレットの作成

研究の視点の具現化のために、調査研究委員会では、上記の３本の柱を立てて、研究を推進していく。いずれも後志管内各校に、本研究の情報発信が可能な方策であると考えたためである。

「研修講座」については、センター所員が講師となり，本研究の内容を基盤とした３つの講座を開講し、管内の教職員の授業力向上や、校内研修の活性化が図れるような発信を行っていく。また、研修講座で発信したことや理論研究を行ったことが、『学びに向かう力を育成する』授業となるかどうかを検証すべく、「検証授業」を実施する。

また、研修講座内の授業や検証授業だけではなく、所員が所属する学校から日常授業に生かせる学習指導案や板書型指導案などを「しりべし指導案バンク」というクラウドフォルダ（Microsoft OneDrive）に収集し、管内の先生方が閲覧できるようにしている。

（２）推進計画

① 所員による研修講座

６月６日（火）	研修講座「校内研修」 ～全員参加の校内研修を目指して～ 対象：分掌チーフ･ミドルリーダー層（５年程度～）、研究担当者 〇研究主題解決のための研究仮説研究計画の立て方、まとめ方など ☆担当所員 ◎板垣、大塚、橋谷
６月２８日（水）	研修講座「学習指導（授業づくり）」 ～明日の授業が楽しみになる１単位時間の授業づくり～ 対象：初任段階層（１～５年程度の経験年数） 〇１単位時間の授業づくり ☆担当所員 ◎中村、輪嶋、山本
９月２０日（水）	研修講座「学習指導（授業改善）」 ～児童・生徒の学びに向かう力の育成を目指して～ 対象：分掌チーフ･ミドルリーダー層（５年程度～） 〇主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について 〇学習評価の改善について ☆担当所員 ◎千葉、菊地（洋）、工藤

② 検証授業　「学びに向かう力」を育成するための授業改善

１１月１７日（金）　寿都町立寿都小学校　２年１組　算数科　森　　正樹　教諭
６年１組　国語科　松井　宏剛　教諭

③ 指導案バンク

昨年度、集めた指導案をより見やすい形にするために、ファイルを整理した。今後、広く指導案を集め、後志全体の学校で活用しやすい形を模索していく。

６．研究構造図

２２世紀まで生きる子どもたちに

・Society 5.0～持続可能な未来社会の創り手として，技術革新や社会の変革を生み出していく力
・「生きる力」～３つの柱 知識・技能／思考力・判断力・表現力／学びに向かう力，人間性等
・学習指導要領の実施～主体的・対話的で深い学び／指導と評価の一体化

学校現場のニーズ

研修センターに期待される役割

授業力の向上と校内研究の活性化

～学びに向かう力の育成を通して～

研究体制・方法

・検証授業　・理論研究　・研修講座「学習指導」「校内研修」　・指導案バンク

《視点１》

学びに向かう力を育成するための授業改善

（1）主体的･対話的で深い学びを目指した授業改善
【研修講座「学習指導（授業改善）」】

（2）若手教員のための，1時間の授業づくり
【研修講座「学習指導（授業づくり）」】

（3）センター所員の所属校での検証授業の実施

《視点２》

実践的指導力の向上を図るための教員研修の工夫・改善

（１）組織的な校内研究体制の確立とワークショップ型研修の推進
【研修講座「校内研修」】

（２）管内連携を目指した指導案バンクの作成

《仮説１》
児童生徒の学びに向かう力を育成する学習活動の実現を目指す授業改善の指針を示すことで，後志管内各校の校内研究推進のニーズに応えることができる。

《仮説２》
組織的な校内研究体制の確立，管内連携を目指した指導案バンクの作成を推進することで，協働性と個々の資質能力向上を図ることができる。

7. 今年度の調査研究委員（所員）の経過報告

回	日 時	名 称	内 容	備 考
1	5月24日（水） 所員会議後	第1回 調査研究委員会	①推進委員長、副委員長の選出 ②研究主題の確認 ③年間計画の作成 ④研修講座講師決定→講座内容の検討→ 事前研日程	研修センター 第一研修室
2	5月30日（火）	第2回 調査研究委員会 （校内研修）	①研修講座「校内研修」 事前研修講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	研修センター 研究室 ◎板垣、大塚、橋谷
3	6月5日（月）	第3回 調査研究委員会 （授業づくり）	①研修講座「学習指導（授業づくり）」事前研修講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	研修センター 研究室 ◎中村、輪嶋、山本
4	6月6日（火）	研修講座 「校内研修」	①運営、講師、参加	講師 ◎板垣、大塚、橋谷
		第4回 調査研究委員会	①研修講座「校内研修」の事後研修	研修センター 第一研修室
5	6月28日（水）	研修講座 「学習指導 （授業づくり）」	①運営、講師、参加	講師 ◎中村、輪嶋、山本
		第5回 調査研究委員会	①研修講座「学習指導（授業づくり）」の事後研修	
6	7月28日（金）	道研連夏季研修会 【オンライン】	①学習の評価 ②ICTについて	
7	8月2日（水）	第6回 調査研究委員会 （授業改善）	①研修講座「学習指導（授業改善）」事前研修 講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	研修センター 研究室 ◎千葉、菊地洋平、工藤
8	9月20日（水）	研修講座 「学習指導 （授業改善）」	①運営、講師、参加	講師 ◎千葉、菊地洋平、工藤
		第7回 調査研究委員会	①研修講座「学習指導（授業改善）」の事後研修	
9	11月17日（金）	検証授業 第8回 調査研究委員会	①授業検証（個別の見取り） ②事後研	
10	11月24日（金）	道研連冬季研修会 【オンライン】	①学習の評価 ②ICTについて	
11	12月8日（金） 所員会議後	検証授業事前研 第9回 調査研究委員会	①各研修講座の交流 ②調査研究事業報告会に向けた報告内容 検討、役割分担	
12	1月11日（木）	第10回 調査研究委員会	①調査研究事業報告会に向けた最終確認	
13	1月11日（木）	調査研究事業報告会	①プレゼン発表 ②運営、参加	
14	1月15日（月）～	教育展望セミナー【オンライン】	変革の時代の学校教育を展望するⅢ ～北海道の未来をみつめて 主体的な学びのその先に～	
15	2月7日（水） 所員会議後	第11回 調査研究委員会	①研究紀要原稿検討	
16	クラウド		①研究紀要原稿の最終チェック	

【第２章】

研究の内容

6月6日（火）　研修講座「校内研修」　講義Ⅰ

研究主題解決のための研究仮説や研究計画の立て方、まとめ方と次年度へのつなげ方

④研究主題、副題の設定

④研究主題、副題の設定

研究主題・副題を設定する際の3つの要素

①目的（子どもの成長）　主語は「教師」
「～の育成」「～を求めて」等

②対象（研究の領域・分野）
「～における」「～の研究」等

③内容・方法（研究の手立て）
「～を通して」等

⑤研究仮説の設定

具体例

研究主題　自分の考えを豊かに表現する子の育成
～各教科における言語活動の指導の工夫を通して～

研究仮説例

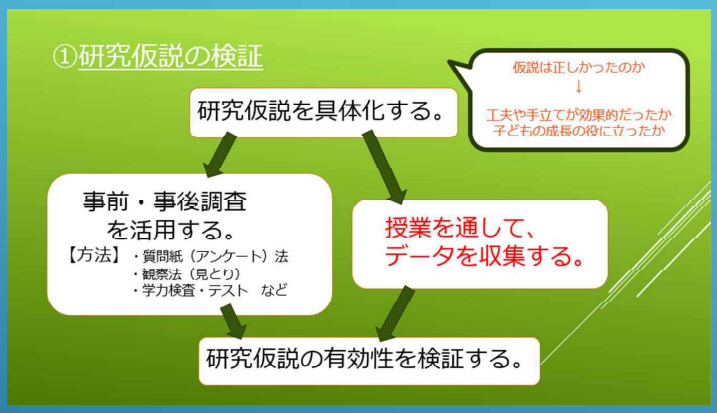
「交流の場面において、　場や範囲

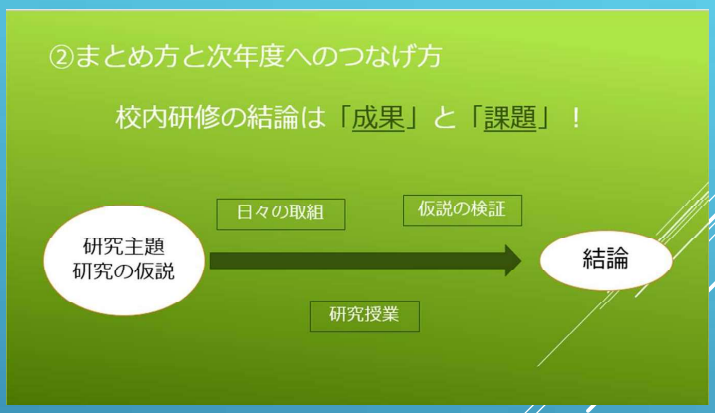
ペアワークやグループワーク、全体交流などを効果的に位置づけることにより　具体的な手立て

集団の中で自分の考えや想いを話したり伝えたりすることができるようになるだろう。」　目指す姿、子ども像

⑥研究推進計画の作成について

【1年次】基盤づくり	【2年次】深化・充実	【3年次】発展
・新テーマ策定 ・研究体制の確立 ・仮説や視点の理解 ・授業実践 ・成果と課題の共有 ・次年度重点の明確化	・新テーマ確定 ・研究の重点確認 ・授業協力者を招き授業実践 ・実践の積み上げ ・成果と課題の共有	・実践発表会開催による外部の評価 ・研究のまとめ ・主題・副題・視点の見直し ・年次研究の立案





「学びに向かう力」研修パッケージの提案

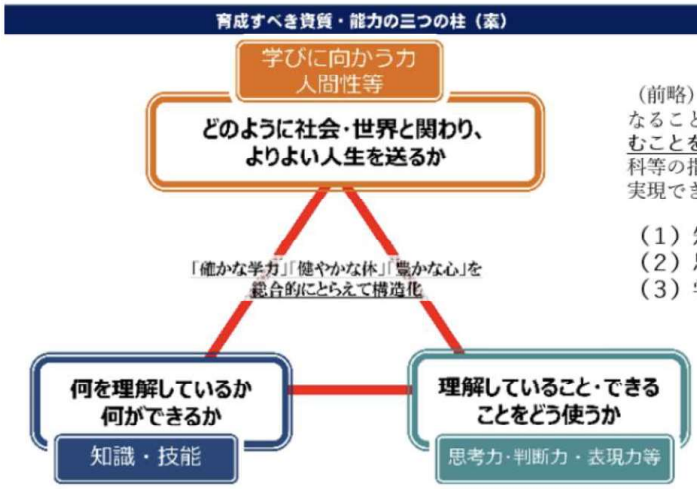
「学習に向かう力」研修パッケージの提案

この時間に考えたいこと

１．学びに向かう力と校内研修
２．「校内研修のパッケージ化」の具体
３．自校で取り入れられそうな内容は？

１．学びに向かうと力と校内研修

１）資質・能力　３つの柱を整理しましょう



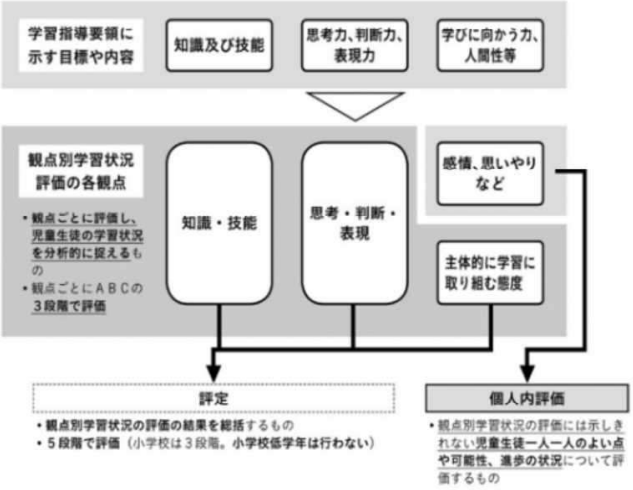
（前略）豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童・生徒に，生きる力をはぐくむことを目指すに当たっては，学校教育全体並びに各教科等の指導を通して（中略）次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

（１）知識及び技能が習得されるようにすること
（２）思考力，判断力，表現力等を育成すること
（３）学びに向かう力，人間性等を涵養すること

KEYWORD
涵養：自然に水がしみこむように，徐々に養い育てること

１．学びに向かう力と校内研修

２）学びに向かう力の涵養



引用：文科省国立教育政策研究所
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

引用：後志教育研究センター 研究紀要No.95
ベネッセ教育総合研究所HP まなびのかたち　より

１．学びに向かう力と校内研修

２）学びに向かう力の涵養

Keyword 「楽しさ」「授業改善」

１．学びに向かう力と校内研修

３）教員の「学びに向かう力」とは？

１．学びに向かう力と校内研修

４）教師の「学びに向かう力」を涵養する校内研修

こんな校内研は嫌だ

- 拘束時間が長い…
- 発言の機会がない…
- 自分の授業が役立っている気がしない…
- 授業者に膨大な時間と労力がかかる…
- 授業者になると、協議の場で責め立てられる…　など

１．学びに向かう力と校内研修

４）教師の「学びに向かう力」を涵養する校内研修

どんな校内研修が理想？

これからの校内研修の形は？

短時間
明　確
低負担
主体的
実践的

１．学びに向かう力と校内研修

４）教師の「学びに向かう力」を涵養する校内研修

校内研修活性化の条件整備

ノれる目的
経験豊富なベテラン
意欲的なミドルリーダー
悩めるビギナー

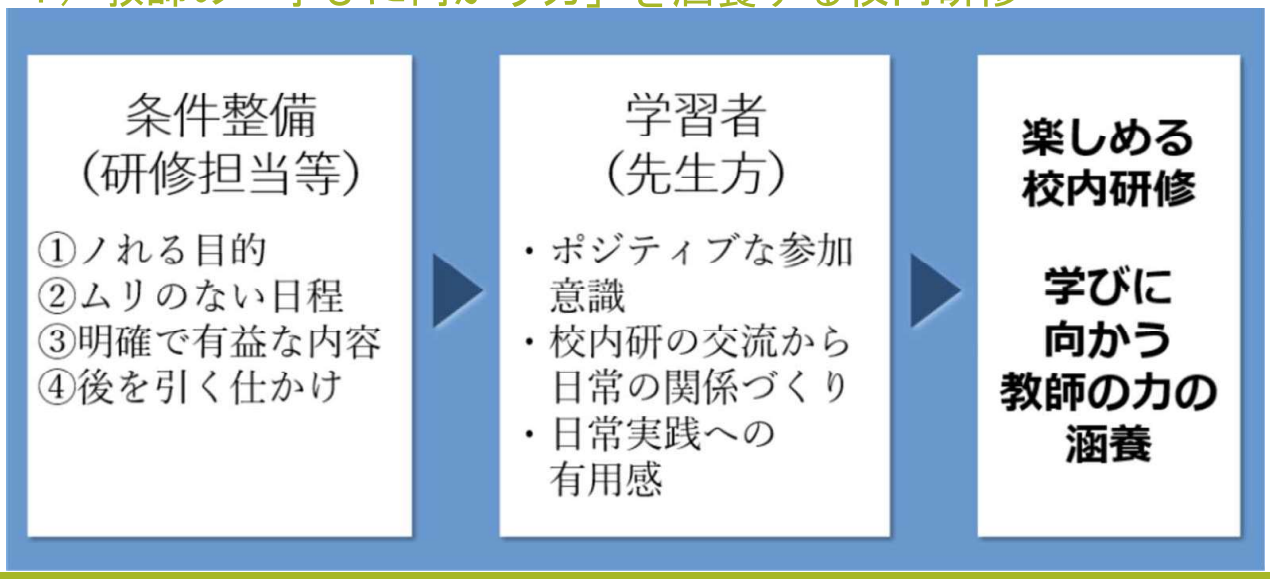
ムリのない日程
周到な計画
時間を決め、伸ばさない

明確で有益な内容
話し合いの柱・方向性を明確に
汎用性のあるまとめ
授業に生かす

後を引く仕かけ
続きは職員室で
意図的なグルーピング
担当からたえず発信

１．学びに向かう力と校内研修

４）教師の「学びに向かう力」を涵養する校内研修



１．学びに向かう力と校内研修

４）教師の「学びに向かう力」を涵養する校内研修

先生方の年齢構成
先生方のニーズ
児童や教師の実態・課題
学校がめざす姿

２．「校内研修パッケージ」の具体

１）主題研究とミニ研修

主題研究

特定の教科・テーマに沿った内容
学校課題の解決や理想の追求

- 授業者感想等
- 小ｸﾞﾙｰﾌﾟ協議
  成果・課題・改善案検討
- グループ間交流
- 全体交流
- まとめ・ふり返り

板書等にまとめる

45~60分程度

ミニ研修

あらゆる教科・テーマ が対象
身近な題材・タイムリーな話題
実態の交流や改善に即した内容

- 導入・説明
- 講義・演習等
- まとめ・ふり返り

20~40分程度

２．「校内研修パッケージ」の具体

２）ミニ研修の具体

【講義型・教授型】

身近な方を講師として招く
スクールカウンセラー
学習支援員
地域の警察官・消防署員　など

自校の先生を講師とする
道徳推進教師
特別支援コーディネーター
ICT機器に詳しい先生
専門指導に長けた先生　など

【話し合い型・全員参加型】

学級の実態や取組を交流する
学習規律・家庭学習
学級経営・係活動　など

動画で共有 する
動画で授業研
NITS校内研修用動画の活用

体験型研修
～プレルボールをやってみよう～
～先生たちも収穫体験～

２．「校内研修パッケージ」の具体

２）ミニ研修の具体

第3回研修（ミニ研）

「学級経営」「生徒指導」について

期　日　令和４年　５月１６日（月）　１４：２０～１５：３５
会　場　倶知安町立倶知安小学校
講　師　倶知安町立倶知安小学校　教諭

【概要】

「学級経営」について
「生徒指導」について

【成果】

・学級経営案を見ながら、学級経営で必要なことや、学級経営とは何かなどの認識を深めることができた。
・学級経営案の作り方について確認をすることができた。

【参加者の声】

・学級経営の作り方を改めて知ることができ勉強になりました。校長先生からの経営方針をしっかり達成できるように、これからの学級経営をがんばっていきたいと思います。
・自分の経営を見つめ直すよい機会となりました。Ａが4/18、Ｂが11/18、Ｃが3/18だったので、まずは、３つのＣをＢにすることから取り組みます。客観的に自分の学級を見て学級経営をしていきたいです。
・学級経営を見直すことで、学校全体で目標を持って取り組んでいることを再確認できました。Ｃ評価の「コミュニティスクールの活用」は計画的に活用していきたいと思います。係活動の時間を確保するための方法はとても参考になったので、実践していきたいです。
・学級目標の振り返りは、長期休み前にフォームでやる予定でしたが、学級経営案は正直、書いて満足になってしまっていました。自分がいつでも見えるところに貼っておこうと思います。

２．「校内研修パッケージ」の具体

２）ミニ研修の具体

第5回研修（ミニ研）

「GIGA」「いじめの認識」について

期　日　令和４年　６月１６日（木）　１５：０５～１５：３５
会　場　倶知安町立倶知安小学校
講　師　倶知安町立倶知安小学校　教諭

【概要】

「GIGA」
「いじめの認識」について

【成果】

・chromebook の使い方について、具体的な例（ジャムボード、フォーム、スプレッドシートなどの使い方）を通して共通理解を図った。
・いじめの認識について NITS の動画を見ながら確認をした。認知件数の多さ＝教師の寄り添いという共通認識を図った。

【参加者の声】

・倶知安小に来て、まだ日が浅いためタブレットの使い方（ジャムボードの付箋、色の付け方の工夫、テキスト・マイニングなど）は知らないことばかりでした。まずは、自分自身が使いこなせるようになることを目標に、１年生でも活用していきたいと思います。フォームを使いこなしたいです。
・タブレットの活用は、ジャムボードはあまり使っていないからチャレンジしたいです。いじめの定義は、初任の時から教わっていたので再確認できました。一方で、認知件数の多さをプラスに捉えることは勉強になりました。子ども達が教師にいじめ（嫌なことをされていること）を伝えやすい環境・関係づくりはこれからも意識していきたいと思います。

２．「校内研修パッケージ」の具体

２）ミニ研修の具体

第2回研修（ミニ研）

「倶知安プラン」「授業作り」について

期　日 令和４年　４月１５日（金）　１５：０５～１５：３５
会　場 倶知安町立倶知安小学校
講　師 倶知安町立倶知安小学校　教諭

【概要】

「倶知安プラン」についての説明
「授業作り」

【成果】

・2 年目となる、倶知安プランの意義とシステムについて共通理解を深めることができた。6 年間、指導を「揃える」ことでの指導の重なりの重要性を認識できた。
・授業の流れの説明と、適応問題の中身についての話では、共通理解を深めることができた。具体的な適応問題の中身について、再度確認することができた。

【参加者の声】

・倶知安プランの授業作りをすることで問題→課題→まとめ→振り返りの流れがしみこんで、毎日の授業が少しずつですが改善されているなと感じています。これからも続けたいと思います。
・KP！MKPI班が学級に入っても誰が授業をしても困らないために、日々の授業の流れを全ての教科で揃えていきたいです。
・授業の流れのイメージがつかめなかったので、大まかにでもイメージがつかめました。練習問題、振り返りまで入れて 45 分の授業ができるよう、タイムマネジメントをしっかり行いたいと思います。「倶知安町五つ星」を 1 年生でも早い時期に達成できるようにします！
・倶知安プランを 4 年間見てきて、どんどん本格的になっていることを感じました。その過程を見てきた身として、中学校にも引き継いでいけるようにしました。具体的には、キャリアパスポートが小中とつながっていくので、計画的に使っていきたいと思います。

２．「校内研修パッケージ」の具体

２）ミニ研修の具体

第3回研修（ミニ研）

「GIGA」について

期　日 令和４年　７月１４日（木）　１５：０５～１５：３５
会　場 倶知安町立倶知安小学校
講　師 教育委員会　山本さん

【概要】

「GIGA」新機能について

【成果】

・スマイルネクストの説明と使い方について共有を図った。（スマイルドリル、スマイルノート、基礎学習、手書き機能など）
・MEXCBT の機能の説明と使い方について共有を図った。（プログラミング、テスト機能など）

【参加者の声】

・聞いたこともないような機能を今後、どう活用して子ども達の学びを深められるのか…。正直、不安な気持ちになりました。ただ、子ども達のタブレット練習も兼ねて、スマイルネクストを使っていきたいと思います。まずは、一人で手書き入力、音声入力をできるように教え込みます。
・新機能について、とても興味深いものでした。今までよりもさらに、ICT を活用した学習ができることに嬉しく思います。スマイルネクストのドリルは、プリントを印刷しなくても子どものタブレットを使って学習できるのが素晴らしいと感じました。まずは、色々な機能を積極的に使っていくことを意識して、これから活用していきたいと思います。大変、勉強になるお話をありがとうございました。
・子ども達の学習に効果的に使えるものを数多く紹介していただきました。特に、ドローンが正三角形を描きながら目の前を飛行した時が印象に残っています。今後、大切になってくるのは、そういった教材の使い方だと考えるので、実践例を具体的に紹介してくれると助かります。お忙しい中、ありがとうございました。

２．「校内研修パッケージ」の具体

２）ミニ研修の具体

第4回研修（ミニ研）

特別支援教育について

期　日　令和４年　７月２６日（火）　１３：３０～１４：１５
会　場　俱知安町立俱知安小学校
講　師　俱知安小学校　教諭

【概要】

特別支援教育について

【成果】

・指導の工夫を考えるための
・手立てを考えるアプローチ
・書く教科等における配慮の例

【参加者の声】

・チェックリストを見て、「教員ってすごいな…」と感じました。あれほどのことを意識しながらマルチタスクをこなしていく、もう少し世間の教員に対する見方が変わっていってほしいなぁと考えました。
・チェックリストをしてみると、普段意識はしているけど、できていない部分があり、特性を理解しながら指導の充実を図っていなければならないと感じました。
・チェックリストをつけてみて、視覚情報を理解できるように ICT を使っていないなぁ、有効に使えてないと感じました。さらに、普段から話をしていることが、クラス全員に伝わっているのか気になったので、具体的に、わかりやすく説明をしていこうと思いました。

２．「校内研修パッケージ」の具体

２）ミニ研修の具体

第5回研修（ミニ研）

道徳（評価）について

期　日　令和４年　１０月１３日（木）　１５：０５～１５：３５
会　場　俱知安町立俱知安小学校
講　師　俱知安小学校　教諭

【概要】

道徳科の評価のしかたについて

【成果】

・道徳科と道徳の違いについて共有を図った。
・道徳科の評価（所見の書き方）について共有を図った。
・所見の書き方の実践を行った。

【参加者の声】

・自分の所見と見比べて考えてみると、私でも書ければ、参考にしたい所がありました。特に、行動の記述と考えの記述の違いには注意していきたいと思います。課題として設定していたので、「ためて」として作っていきたいです。
・道徳の所見のよくない書き方を見ると分かりやすくにゆっているなぁ…と反省しながら、勉強を聞いていました。学年末の評価の書き方に反映させたいと思います。また、「教科書の内容を全部行うと時間が足りなくなる、大きな内容は１～２題にして、的を絞って行うことを心がけるようにすると良い」というアドバイスを受け、今後の道徳の授業に活かしていこうと思いました。

２．「校内研修パッケージ」の具体

３）計画づくりの参考に

２０２３　ミニ・メンター研修(教師力アップ)　年間計画

回	日時	時間	ミニ研修講座名(内容)	倶知安小学校校内研修	講師
1	４月７日(金)	14：15～14：45		全体計画・提案授業・授業作り	
2	４月１９日(水)	15：10～15：30	教育課程実践交流会（公民館）		研修
3	５月１１日(木)	15：10～	算数科(日常の実践から)	提案授業反省・交流授業に向けて	中軽米先生
4	５月１８日(木)	15：10～15：30	学級経営①生徒指導		桂先生
5	５月２５日(木)	15：10～15：30	GIGA 研修	交流授業ブロック研修	福先生
6	６月１５日(木)	15：10～15：30	学級経営②気になる子への支援		桂先生
	（7 月	未定	GIGA？		山本さん）
7	７月６日(木)	15：10～15：30	道徳①評価	（必要であれば）交流授業ブロック研修	中谷先生
8	７月２０日(木)	15：10～15：30	救急講習		田中先生
9	７月 26 日(水)	13：00～14：30	特別支援教育		支援学級先生
10	８月 18 日(金)	15：10～15：30		公開研究発表会ブロック研修	
11	８月 24 日(木)	15：10～15：30		公開研究発表会ブロック研修	
※	８月２５日(金)			公開研究発表会	
12	９月２１日(木)	15：10～15：30	国語科(日常の実践から)		大塚
13	10 月 12 日（木）	15：10～15：30	道徳②(授業作り・昨今の動向)	交流授業ブロック研修	中谷先生
14	10 月 26 日(木)	15：10～15：30	書道(授業作り・技術等)		伊藤先生
15	１１月２日(木)	15：10～15：30	道徳③(道徳のブロック交流授業を受けて)		中谷先生
16	１１月１６日(木)	15：10～15：30		交流授業ブロック研修	
17	１１月２１日(火)			倶知安プラン合同教育実践発表会	
18	12 月７日(木)	15：10～15：30	教職員服務研修		教頭先生
19	１月１１日(木)	未定	体育科(スキー研修)		桂先生
20	２月２９日(木)	15：10～15：30		反省・次年度計画	

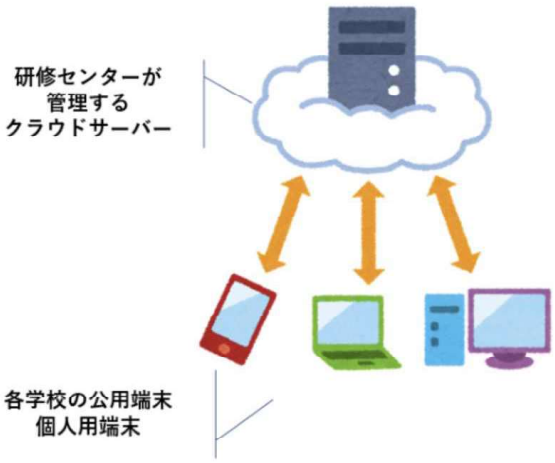
研究カレンダー　2023年

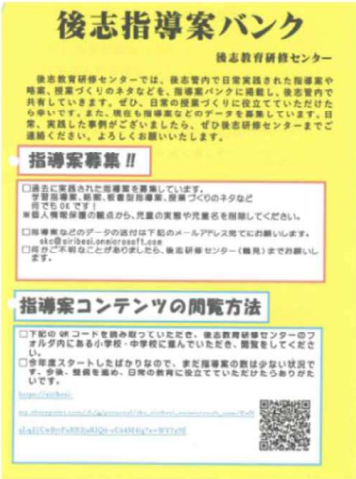
①～⑤　第1週～第5週　　ミニ・メンター研修

月	週	研修	交流授業	行事
4月	① 4/1			
	② 4/3～4/7	7日 研修① 1 全体計画 2 提案授業・授業作り		6日 始業式・着任式
	③ 4/10～4/14	19日 研修② 教育課程実践交流会		
	④ 4/17～4/21			18・24日 家庭訪問週間 21日 1年生を迎える会
	⑤ 4/24～4/28		提案授業① 3・01大塚	
5月	① 5/1～5/5			
	② 5/8～5/12	11日 研修③ 1 提案授業を受けて 2 交流授業計画 3 算数(日常の実践から) 中軽米先生		8日・10日 参観週間
	③ 5/15～5/19	18日 研修④ 1 学級経営①生徒指導 桂先生		19日 遠足
	④ 5/22～5/26	25日 研修⑤ 1 GIGA 福先生 2 交流授業ブロック研修		26日 遠足予備日
6月	① 5/29～6/2			
	② 6/5～6/9			9日 運動会
	③ 6/12～6/16	15日 研修⑥ 1 学級経営②気になる子への支援 桂先生	交流授業 東プロ① 寺澤先生	運動会後～9月ボブラ学級 ※各学年学校に所属している子どもたちの学習の様子を見てください！
	④ 6/19～6/23		交流授業 中プロ① 佐藤先生	
7月	① 6/26～6/30		交流授業 倶プロ① 中谷先生	28・29日 6年修学旅行
	② 7/3～7/7	6日 研修⑦ 1 道徳①評価について 中谷先生 2 交流授業ブロック研修	交流授業 中プロ② 下田先生	

２．「校内研修パッケージ」の具体

４）「指導案バンク」のご案内





後志指導案バンク

後志教育研修センター

後志教育研修センターでは、後志管内で日常実践された指導案や時案、授業づくりのネタなどを、指導案バンクに掲載し、後志管内で共有していきます。ぜひ、日常の授業づくりに役立てていただけたら幸いです。また、現在も指導案などのデータを募集しています。日常、実践した事例がございましたら、ぜひ後志研修センターまでご連絡ください。よろしくお願いいたします。

指導案募集!!

□過去に実践された指導案を募集しています。
学習指導案、板書、授業記録指導案、授業づくりのネタなど
何でもOKです！
※個人情報保護の観点から、児童の実名や児童名を削除してください。

□指導案などのデータの送付は下記のメールアドレス宛てにお願いします。
shiribeki@shiribeki-nosei.com

□何かご不明なことがありましたら、後志研修センター（梅見）までお願いします。

指導案コンテンツの閲覧方法

□下記の URL コードを読み取っていただき、後志教育研修センターのフォルダ内にある小学校・中学校に進んでいただき、閲覧をしてください。

□今年度スタートしたばかりなので、まだ指導案の数は少ない状況です。今後、登録を進め、日常の教育に役立てていただけたらありがたいです。

３．自校で取り入れられそうな内容は？

どんな内容、どんなテーマなら、
先生方自身が学びたい！という意欲をもって
取り組んでいけそうでしょうか？
この後の演習の中で、同じグループになっている方や
今回この場で繋がることができた先生方と、
情報交換や「こんなのどう？」なんて
話のきっかけになれば…と思います。

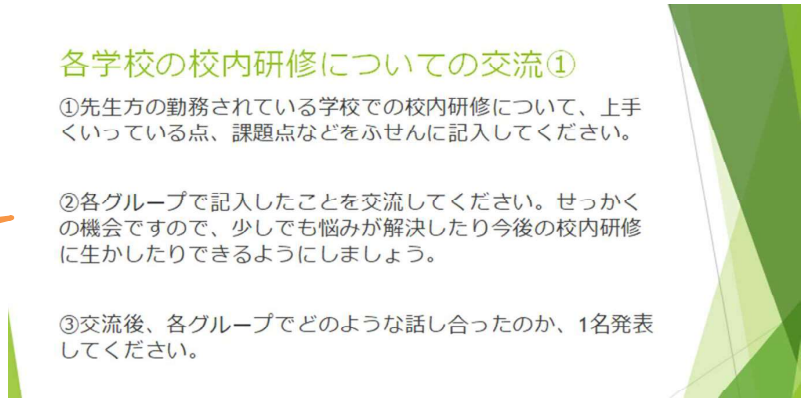
③6月6日（火）研修講座「校内研修」演習・交流

- **各校の校内研修の現状と課題の交流**

〇ワークショップ型での交流を実施

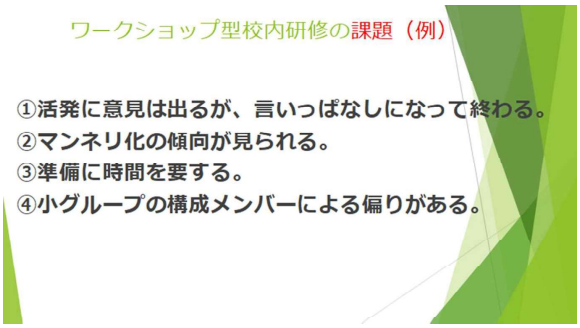
- ①自校の研修でうまくいっていること
- ②研修を進めていく上での悩みや課題
- ③その他

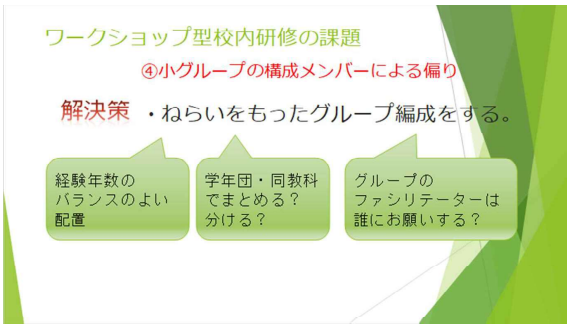
活発な議論ができるよう、参加者同士の交流の時間を長く設定した。どのグループも積極的に話し合う姿が見られた。

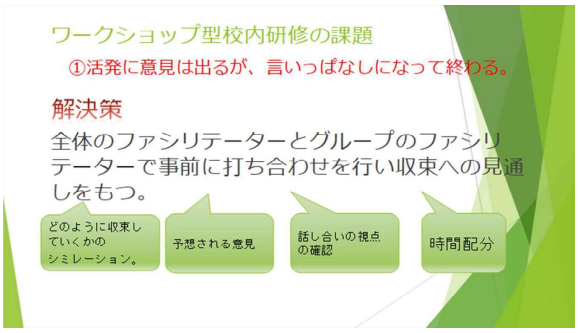


それぞれの成果や悩み、課題について交流するだけでなく、今後の自校の校内研修に生かすことができるよう、グループ内でよりよい取組を模索するなど、これからの実践に生かすことのできるアイデアを得ることができた。

③6月6日（火）研修講座「校内研修」演習・交流







【成果と課題】

○成果

・1人で研究係を担当している、または初めて研究係を担当した、など不安や悩みを抱えた先生方と一緒に、演習・交流を行えたため、お互いにアドバイスをし合えたり、共感できたりと、「良かった！」「みんな困っていたんだ！」と正直に話し合うことができた。

・昨年度の反省で上がっていた演習、交流の時間を長く取ることが出来た。

●課題

・もっと実践例が知りたいとの声があったので、講師団側で提供できる資料を増やしたり、参加者の先生方に資料を持ち寄ってもらうように声をかけたりするなどしたい。

・開催時期がこの時期で良いのか(すでに各校の研究はスタート済み)検証していきたい。

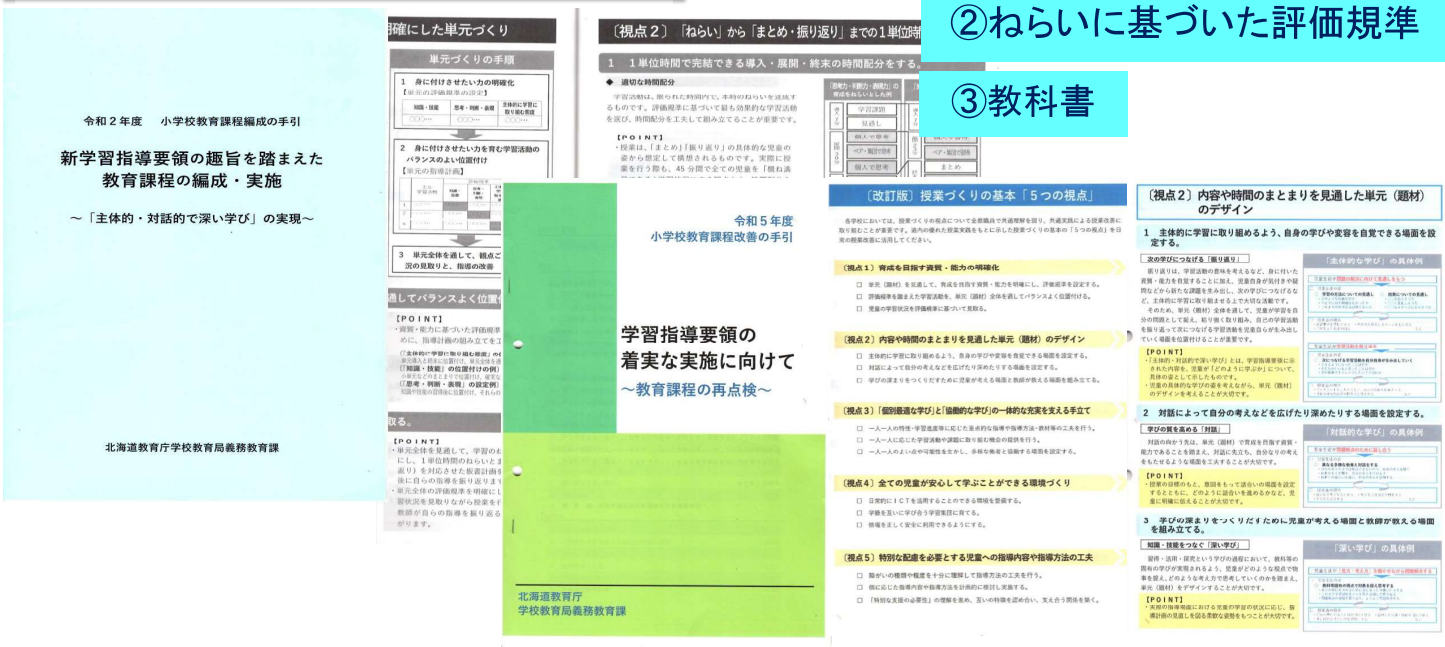
①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

『授業づくりの悩みに答えます！』

①タイムマネジメント

②ねらいに基づいた評価規準

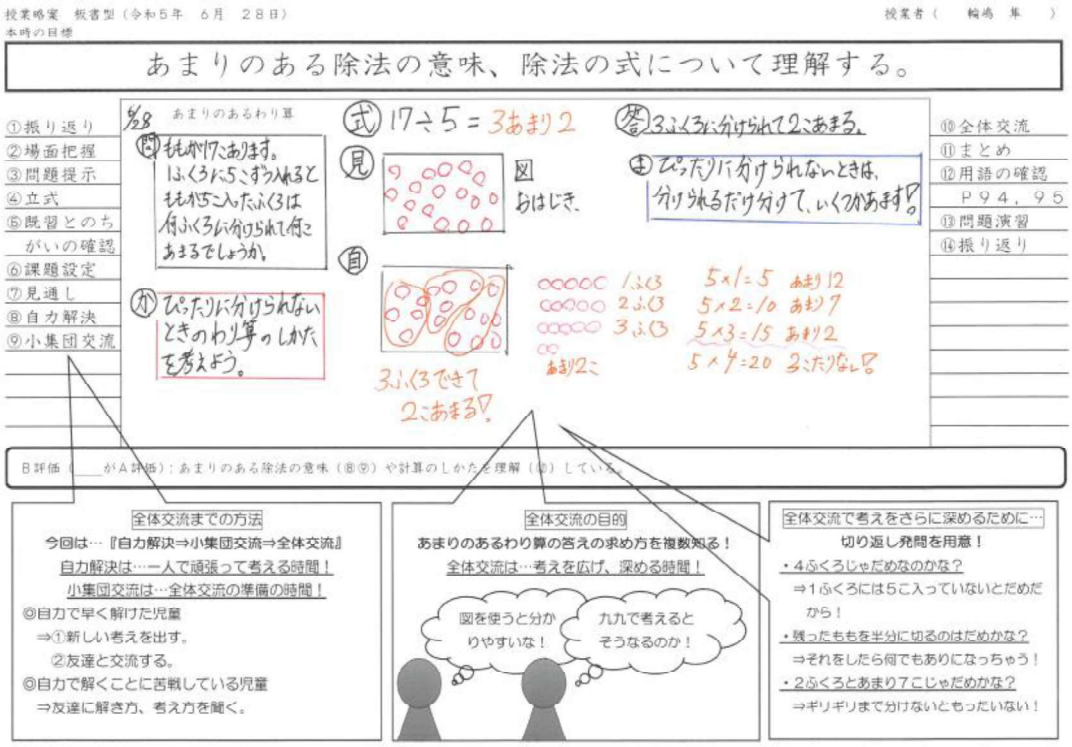
③教科書



①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

算数科の授業を公開

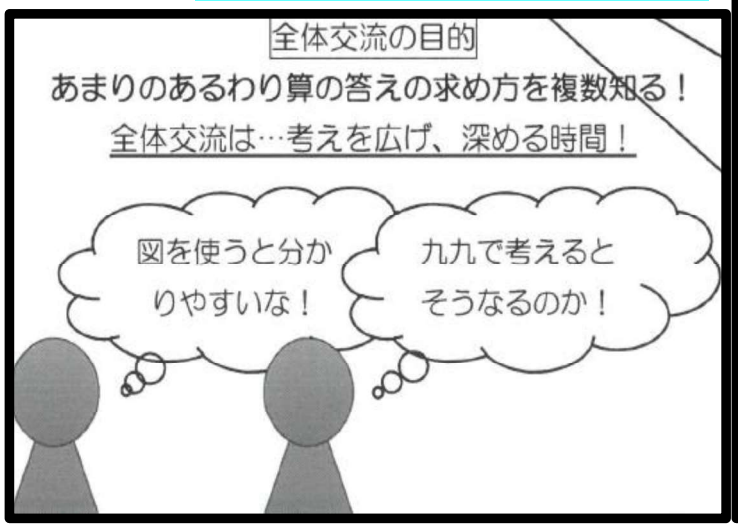
板書型指導案



①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

問題解決型

→全体交流のポイント



全体交流で考えをさらに深めるために…

切り返し発問を用意！

・４ふくろじゃだめなのかな？

⇒１ふくろには５こ入っていないとだめだから！

・残ったももを半分に切るのはだめかな？

⇒それをしたら何でもありになっちゃう！

・２ふくろとあまり７こじゃだめかな？

⇒ギリギリまで分けないともったいない！

①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

単元計画

単元のゴールの明確化！

＋

一単位時間の充実！

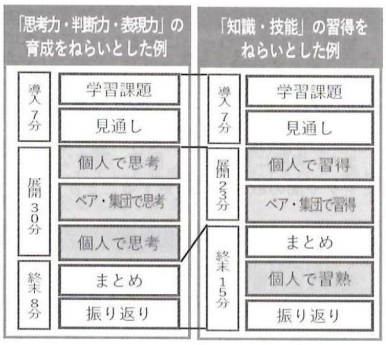
あまりのあるわり算

①	あまりのあるわり算の計算のしかたを考える！
②	あまりの大きさがどうなるか分かる！
③	あまりのある『１つ分は？問題』のとき方を考える！
④	あまりのあるわり算のたしかめの式が分かる！
⑤	あまりをどうすればいいか考える！パート１！
⑥	あまりをどうすればいいか考える！パート２！
⑦	おう用問題をとく！
⑧	問題えんしゅうをして学習をふり返る！

①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

①タイムマネジメント 例

1　前時をふり返る
2　問題をつかむ
3　課題
4　見通しをもつ
5　自分の考えをもつ（自力解決）
6　交流（ペア、グループ、全体）
7　まとめ
8　練習問題でたしかめる
9　ふり返る

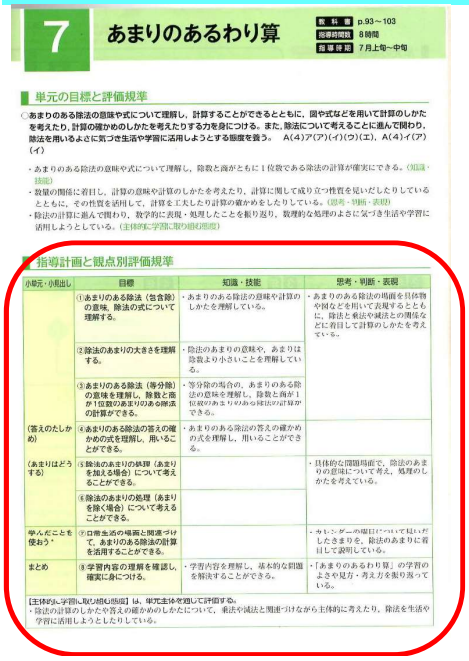


（例）振り返り

学習内容	○授業で学習したこと ○自分なりにわかったこと
学び方	○学習の中で気づいたこと ○友達から学んだこと
これからの学び	○もっと知りたいこと ○これから生かしたいこと

①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

②ねらいに基づいた評価規準　（例）3年　算数「あまりのあるわり算」



7　あまりのあるわり算　教科書 p.93～103　授業時間数 8時間　指導時期 7月上旬～中旬

単元の目標と評価規準

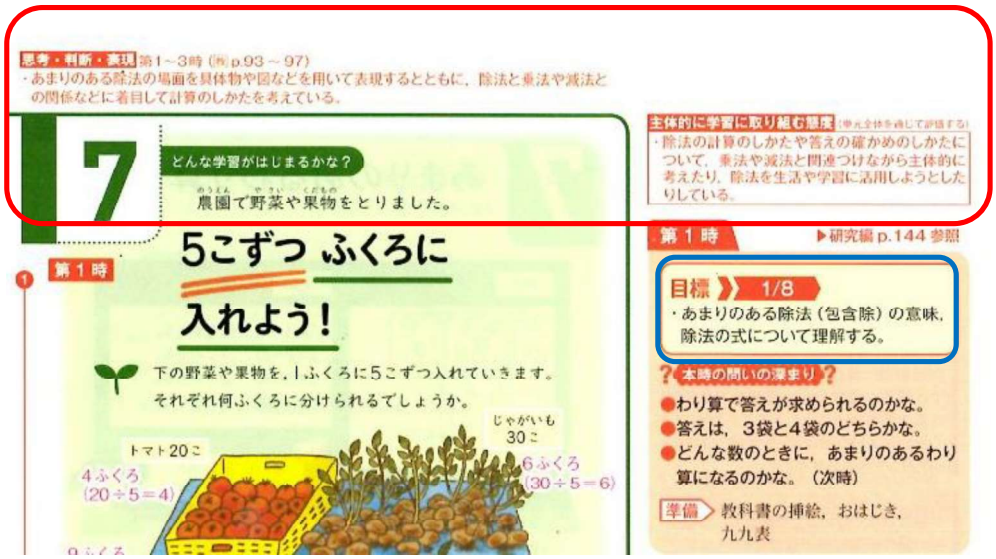
○あまりのある除法の意味や式について理解し，計算することができるとともに，図や式などを用いて計算のしかたを考えたり，計算の確かめのしかたを考えたりする力を身につける。また，除法について考えることに進んで関わり，除法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。　A(4)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)，A(4)イ(ア)(イ)

・あまりのある除法の意味や式について理解し，除数と商がともに1位数である除法の計算が確実にできる。〈知識・技能〉
・数量の関係に着目し，計算の意味や計算のしかたを考えたり，計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに，その性質を活用して，計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。〈思考・判断・表現〉
・除法の計算に進んで関わり，数学的に表現・処理したことを振り返り，数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。〈主体的に学習に取り組む態度〉

指導計画と観点別評価規準

小単元・小見出し	目標	知識・技能	思考・判断・表現
	①あまりのある除法（包含除）の意味，除法の式について理解する。	・あまりのある除法の意味や計算のしかたを理解している。	・あまりのある除法の場面を具体物や図などを用いて表現するとともに，除法と乗法や減法との関係などに着目して計算のしかたを考えている。
	②除法のあまりの大きさを理解する。	・除法のあまりの意味や，あまりは除数より小さいことを理解している。	
	③あまりのある除法（等分除）の意味を理解し，除数と商が1位数のあまりのある除法の計算ができる。	・等分除の場合の，あまりのある除法の意味を理解し，除数と商が1位数のあまりのある除法の計算ができる。	
（答えのたしかめ）	④あまりのある除法の答えの確かめの式を理解し，用いることができる。	・あまりのある除法の答えの確かめの式を理解し，用いることができる。	
（あまりはどうする）	⑤除法のあまりの処理（あまりを加える場合）について考えることができる。		・具体的な問題場面で，除法のあまりの意味について考え，処理のしかたを考えている。
	⑥除法のあまりの処理（あまりを除く場合）について考えることができる。		
学んだことを使おう＊	⑦日常生活の場面と関連づけて，あまりのある除法の計算を活用することができる。		・カレンダーの題材について見いだしたきまりを，除法のあまりに着目して説明している。
まとめ	⑧学習内容の理解を確認し，確実に身につける。	・学習内容を理解し，基本的な問題を解決することができる。	・「あまりのあるわり算」の学習のよさや見方・考え方を振り返っている。

〔主体的に学習に取り組む態度〕は，単元全体を通して評価する。
・除法の計算のしかたや答えの確かめのしかたについて，乗法や減法と関連づけながら主体的に考えたり，除法を生活や学習に活用しようとしたりしている。



思考・判断・表現　第1～3時（教 p.93～97）
・あまりのある除法の場面を具体物や図などを用いて表現するとともに，除法と乗法や減法との関係などに着目して計算のしかたを考えている。

7　どんな学習がはじまるかな？
農園で野菜や果物をとりました。
5こずつ ふくろに 入れよう！
下の野菜や果物を，1ふくろに5こずつ入れていきます。それぞれ何ふくろに分けられるでしょうか。
トマト20こ　4ふくろ（20÷5＝4）　じゃがいも30こ　6ふくろ（30÷5＝6）

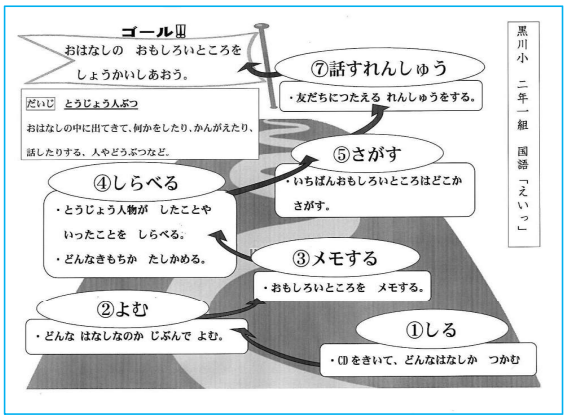
主体的に学習に取り組む態度（単元全体を通して評価する）
・除法の計算のしかたや答えの確かめのしかたについて，乗法や減法と関連づけながら主体的に考えたり，除法を生活や学習に活用しようとしたりしている。

第1時　▶研究編 p.144 参照
目標　1/8
・あまりのある除法（包含除）の意味，除法の式について理解する。
本時の問いの深まり
●わり算で答えが求められるのかな。
●答えは，3袋と4袋のどちらかな。
●どんな数のときに，あまりのあるわり算になるのかな。（次時）
準備　教科書の挿絵，おはじき，九九表

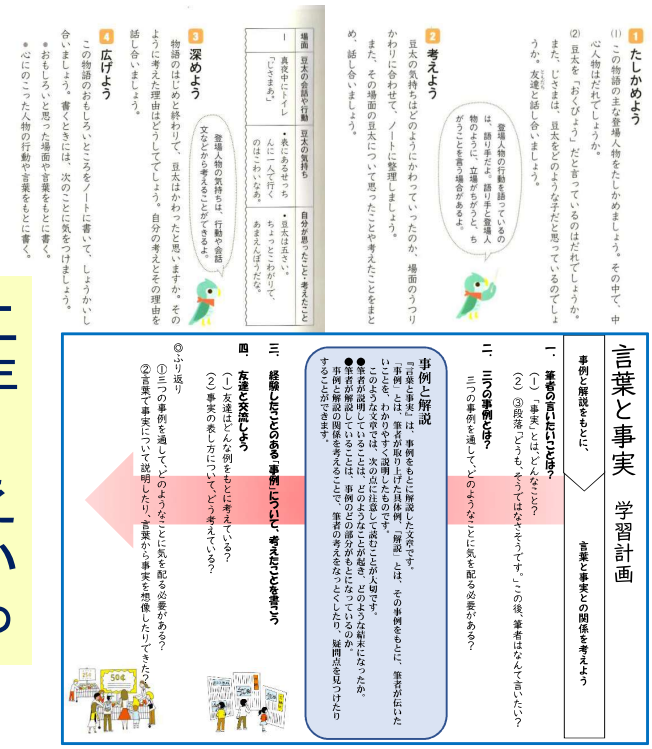
①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

③教科書の構成

国語　学習計画



二年　えいっ



1 たしかめよう
(1) この物語の主な登場人物をたしかめましょう。その中で、中心人物はだれでしょうか。
(2) 豆太を「おくびょう」だと言っているのはだれでしょうか。また、じさまは、豆太をどのような子だと思っているのでしょうか。友達と話し合いましょう。
登場人物の行動を語っているのは誰か手がかりとなる。立場がちがうと、ちがうことを言う場合があるよ。

2 考えよう
豆太の気持ちはどのようにかわっていったのか、場面のつうつりかわりに合わせて、ノートに整理しましょう。
また、その場面の豆太について思ったことや考えたことをまとめ、話し合いましょう。

場面	豆太の食話や行動	豆太の気持ち	自分が思ったこと・考えたこと
一「じさまあ」	真夜中にトイレのはこわいなあ。	・表にあるせっちんに一人で行く。	・豆太は五さい。ちょうどこわがりで、あまえんぼうだな。

登場人物の気持ちは、行動や会話文などから考えることができるよ。

3 深めよう
物語のはじめと終わりで、豆太はかわったと思いますか。その様子に考えた理由はどうしてでしょう。自分の考えとその理由を話し合いましょう。

4 広げよう
この物語のおもしろいところをノートに書いて、しょうかいし合いましょう。書くときには、次のことに気をつけましょう。
＊おもしろいと思った場面や言葉をもとに書く。
＊心にのこった人物の行動や言葉をもとに書く。

三年　モチモチの木

言葉と事実　学習計画

事例と解説をもとに、言葉と事実との関係を考えよう

一、筆者の言いたいことは？
(1)「事実」とは、どんなこと？
(2) ③段落「どうも、そうではなさそうです。」この後、筆者はなんて言いたい？

二、三つの事例とは？
三つの事例を通して、どのようなことに気を配る必要がある？

事例と解説
『言葉と事実』は、事例をもとに解説した文章です。
「事例」とは、筆者が取り上げた具体例、「解説」とは、その事例をもとに、筆者が伝えたいことを、わかりやすく説明したものです。
このような文章では、次の点に注意して読むことが大切です。
●筆者が説明していることは、何についてのことなのか。
●事例と解説の関係を考えることで、筆者の考えをなっとくしたり、疑問点を見つけたりすることができます。

三、経験したことのある「事例」について、考えたことを書こう

四、友達と交流しよう
(1) 友達はどんな例をもとに考えている？
(2) 事実の表し方についてどう考えている？

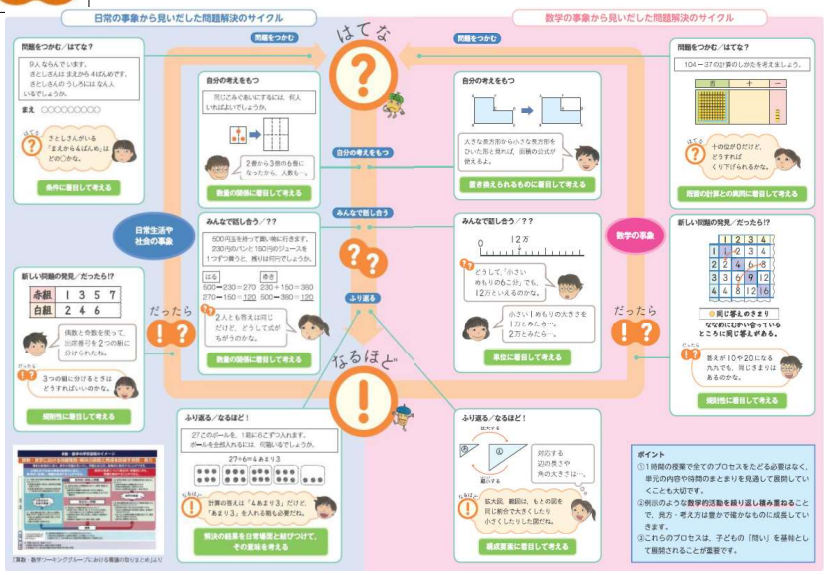
五、ふり返り
①三つの事例を通して、どのようなことに気を配る必要がある？
②言葉で事実について説明したり、言葉から事実を想像したりできたか？

五年　言葉と事実

①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

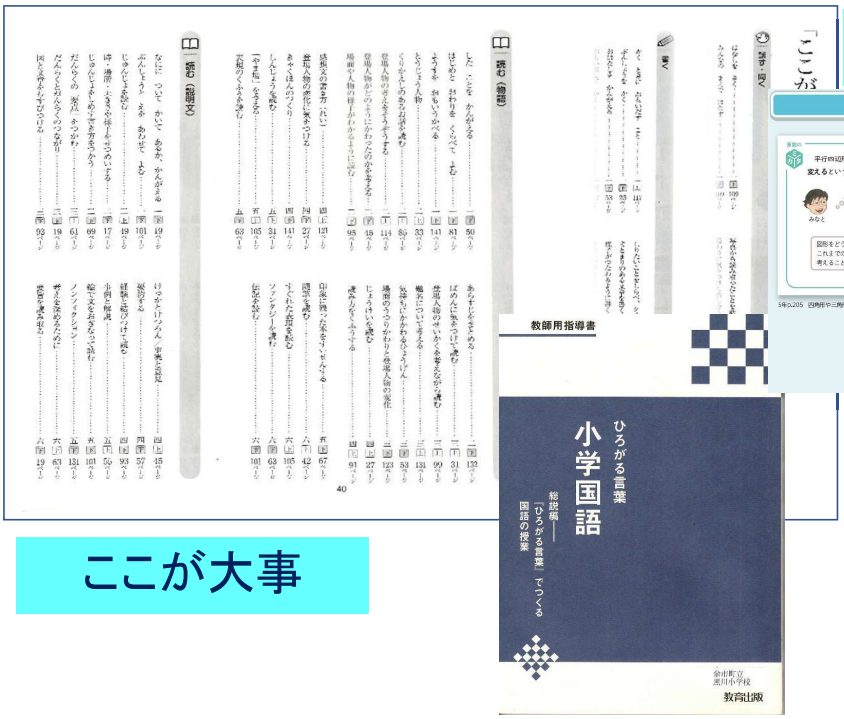
算数　教科書の基本姿勢

「“問い”の連続でつくる数学的活動」

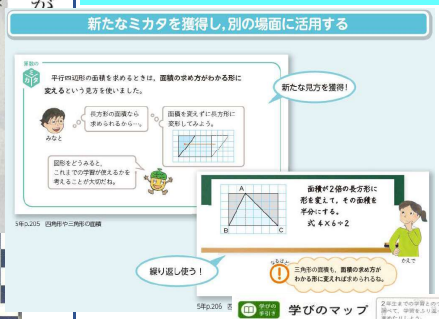


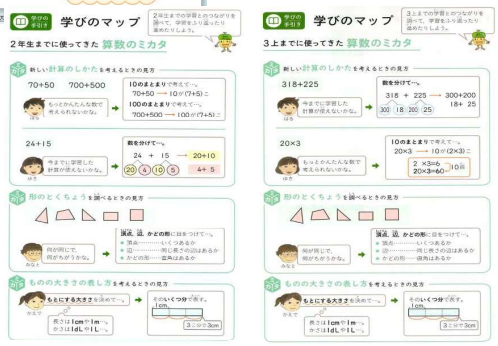
➡単元導入では、
身近な題材から算数の問題を発見し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるよう配慮されている。

①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）



算数のミカタ　学びのマップ





ここが大事

①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

交流（ペア、少人数）

①短時間に話す機会の確保
②安心、自信
③練習
④教師側の支援、見取り
⑤アドバイス、ヒント、知る
⑥思考の広がり

話したくなる授業作り
話せる環境作り
意図をもって

何のためにペア交流しているのか
どんなよさがあるのか
子どもにも意識させること

話す、聞く時間
反応の仕方

☆低学年→自分なりに表現･･･たくさんの児童が話せる、聞ける経験
☆中学年→分かりやすく説明できる･･･高め合える練習、価値づける、伸ばしていく
☆高学年→的確に説明できる･･･自分達で作り上げる授業

①6月28日　研修講座「学習指導」（授業づくり）

＜演習＞

授業略案（　　年　　月　　日）　　授業者（　　）

本時の目標

B評価（＿＿＿がA評価）：

	導入	展開	終末
主体的な学び			
対話的な学び			
深い学び			

＜成果と課題＞

＜成果＞

・若手教員（1～4年目）が多く参加していたため、所員が問題解決型の授業を見せることで、参加者にとって1単位時間の授業の流れをイメージすることができた。

・「どこに重点を置いて授業を計画し進めていくべきなのか」「課題設定のしかた」「まとめとの整合性」等、基本的な授業作りのポイントを伝えることができた。

・授業実践や演習の時間に、実際に板書型指導案を活用することができた。

＜課題＞

・演習の時間が少ないように感じた。予想していたより、実際に1単位時間の授業を作ること（板書型指導案）に時間がかかったり、日常の悩みを交流したりすることに時間がかかった。

→なので、事前アンケート等を通して、参加者の授業作りの悩みを講師側で抑えることや、単元を見通した授業計画の必要性なども伝えていけたらよい。

②9月20日　研修講座「学習指導」（授業改善）

１３の授業改善の視点

2「主体的・対話的で深い学び」からみる授業改善の視点

主体的な学びに関する授業改善の視点

1学ぶことに興味関心を持つ
2自己のキャリア形成の方向性と関連付ける
3見通しを持つ
4粘り強く取り組む
5自己の学習活動を振り返り次につなげる

2「主体的・対話的で深い学び」からみる授業改善の視点

対話的な学びに関する授業改善の視点

6子供同士の協働を手掛りに考える
　6Aペアや班で考える
　6B学級全体で考える
7教職員や地域の人との対話を手掛りに考える
8先哲の考え方を手掛りに考える
9多様な表現方法を用いて対話する

2「主体的・対話的で深い学び」からみる授業改善の視点

深い学びに関する授業改善の視点

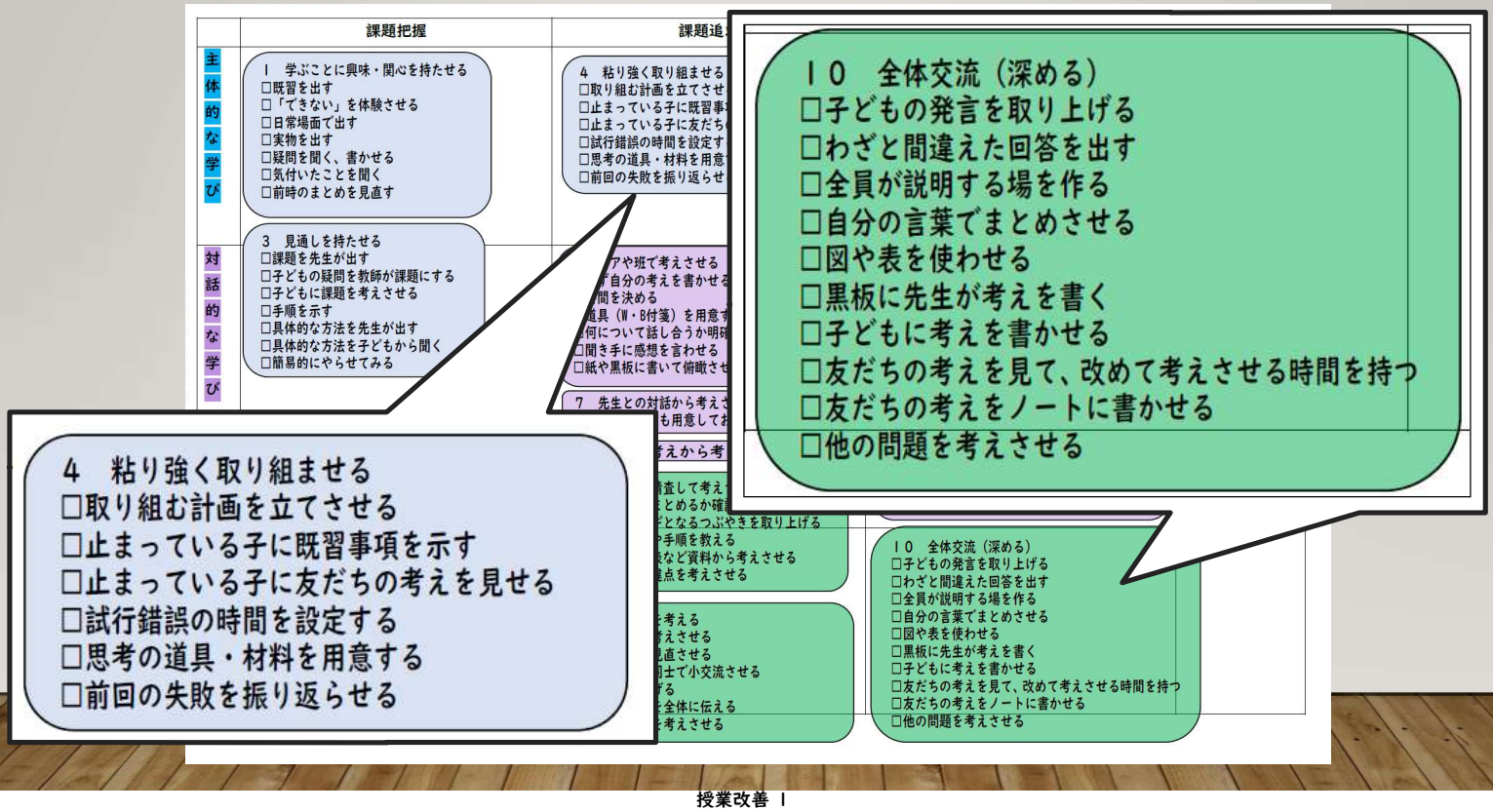
10 知識を相互に関連付けてより深く理解する
11 情報を精査して考えを形成する
12 問題を見いだして解決策を考える
13 思いや考えを基に創造する

それぞれの学び

	課題把握	課題追	課題解決	振り返り
主体的な学び	1　学ぶことに興味・関心を持たせる □既習を出す □「できない」を体験させる □日常場面で出す □実物を出す □疑問を聞く、書かせる □気付いたことを聞く □前時のまとめを見直す	4　粘り強く取り組ませる □取り組む計画を立てさせる □止まっている子に既習事項を示す □止まっている子に友だちの考えを見せる □試行錯誤の時間を設定する □思考の道具・材料を用意する □前回の失敗を振り返らせる		2・5　振り返りの具体例 □ふりかえりの時間を作る □学習して考えたこと □自分の考えが変化したこと □わかった要因を □わかった場面を □これからやってみたいこと □自分の生活と学んだことの関連
対話的な学び	3　見通しを持たせる □課題を先生が出す □子どもの疑問を教師が課題にする □子どもに課題を考えさせる □手順を示す □具体的な方法を先生が出す □具体的な方法を子どもから聞く □簡易的にやらせてみる	6　ペアや班で考えさせる □まず自分の考えを書かせる □時間を決める □道具（W・B付箋）を用意する □何について話し合うか明確にする □聞き手に感想を言わせる □紙や黒板に書いて俯瞰させる 7　先生との対話から考えさせる □発問をいくつも用意しておく 8　先哲の考えから考えさせる	6　学級全体で考えさせる □発表の順番を決めておく □どの立場から指名するか決めておく □話し合いの焦点は何か決めておく □聞き手に質問や感想を聞く □ペア・グループの時間をとる □話し合いを板書する 9　交流の表現方法 □表現する時間を作る □どんな方法で表現するか決めさせる。 □他の人の表現方法と比較させてよりよく表現させる □実物を操作して説明させる	
深い学び		11　情報を精査して考えさせる □何についてまとめるか確認する □子どものカギとなるつぶやきを取り上げる □解決の方法や手順を教える □イラスト・表など資料から考えさせる □共通点や相違点を考えさせる 12　解決策を考える □課題は何か考えさせる □既習事項を見直させる □子どもたち同士で小交流させる □ヒントをあげる □一人の疑問を全体に伝える □失敗の原因を考えさせる	10　全体交流（深める） □子どもの発言を取り上げる □わざと間違えた回答を出す □全員が説明する場を作る □自分の言葉でまとめさせる □図や表を使わせる □黒板に先生が考えを書く □子どもに考えを書かせる □友だちの考えを見て、改めて考えさせる時間を持つ □友だちの考えをノートに書かせる □他の問題を考えさせる	

「学びの具体例」
～具体的な教師の手立て

②9月20日　研修講座「学習指導」（授業改善）



②9月20日　研修講座「学習指導」（授業改善）

本時の目標

B評価

	課題把握	課題追求	課題解決	振り返り
主体的な学び	1　学ぶことに興味・関心を持たせる 3　見通しを持たせる	4　粘り強く取り組ませる		2　自己のキャリア形成の方向性と関連付けさせる 5　自己の学習活動を振り返り、次につなげさせる
対話的な学び		6　ペアや班で考えさせる 7　先生との対話から考えさせる 8　先哲の考えから考えさせる 9　多種な表現方法を用いて話し合わせる	6　学級全体で考えさせる	
深い学び		11　情報を精査して考えを形成させる 12　問題を見いだして解決策を考える	10　知識を相互に関連付けて より深く理解させる	

板書型指導案に
授業改善の視点を
組み込み
具体的な場面を
チェックリストに

それぞれの学びの具体例

	課題把握	課題追求	課題解決	振り返り
主体的な学び	1　学ぶことに興味・関心を持たせる □既習を出す □「できない」を体験させる □日常場面で出す □実物を出す □疑問を聞く、書かせる □気付いたことを聞く □前時のまとめを見直す	4　粘り強く取り組ませる □取り組む計画を立てさせる □止まっている子に既習事項を示す □止まっている子に友だちの考えを見せる □試行錯誤の時間を設定する □思考の道具・材料を用意する □前回の失敗を振り返らせる		2・5　振り返りの具体例 □ふりかえりの時間を作る □学習して考えたこと □自分の考えが変化したこと □わかった要因を □わかった場面を □これからやってみたいこと □自分の生活と学んだことの関連
対話的な学び	3　見通しを持たせる □課題を先生が出す □子どもの疑問を教師が課題にする □子どもに課題を考えさせる □手順を示す □具体的な方法を先生が出す □具体的な方法を子どもから聞く □簡単にやらせてみる	6　ペアや班で考えさせる □まず自分の考えを書かせる □時間を決める □道具（ﾎﾜｲﾄ付箋）を用意する □何について話し合うか明確にする □聞き手に感想を言わせる □紙や黒板に書いて掲載させる 7　先生との対話から考えさせる □発問をいくつも用意しておく 8　先哲の考えから考えさせる	6　学級全体で考えさせる □発表の順番を決めておく □どの立場から発言するか決めておく □話し合いの焦点は何か決めておく □聞き手に質問や感想を聞く □ペア・グループの時間をとる □話し合いを板書する 9　交流の表現方法 □表現する時間を作る □どんな方法で表現するか決めさせる。 □他の人の表現方法と比較させてよりよく表現させる □実物を操作して説明させる	
深い学び		11　情報を精査して考えさせる □何についてまとめるか確認する □子どものカギとなるつぶやきを取り上げる □解決の方法や手順を教える □イラスト・表など資料から考えさせる □共通点や相違点を考えさせる 12　解決策を考える □課題は何か考えさせる □既習事項を見直させる □子どもたち同士での交流させる □ヒントをあげる □一人の疑問を全体に伝える □失敗の原因を考えさせる	10　全体交流（深める） □子どもの発言を取り上げる □わざと間違えた解答を出す □全員が説明する場を作る □自分の言葉でまとめさせる □図や表を使わせる □黒板に先生が考えを書く □子どもに考えを書かせる □友だちの考えを見て、改めて考えさせる時間を持つ □友だちの考えをノートに書かせる □他の問題を考えさせる	

②９月２０日　研修講座「学習指導」（授業改善）

授業実践（蘭越中学校1年）

②９月２０日　研修講座「学習指

授業実践（蘭越中学校1年）

Unit 7 Foreign Artist in Japan

1－A　No.　Name

目的・場面・状況

蘭越町にアメリカの中学生がやってきます。彼らは日本のアニメや音楽などが好きですが、それほど詳しくはありません。二人が楽しく日本の文化や芸能に触れることができるように、クイズを交えながら紹介する企画を作りました。好きなキャラクターや人についてのクイズや紹介文を作成しましょう。

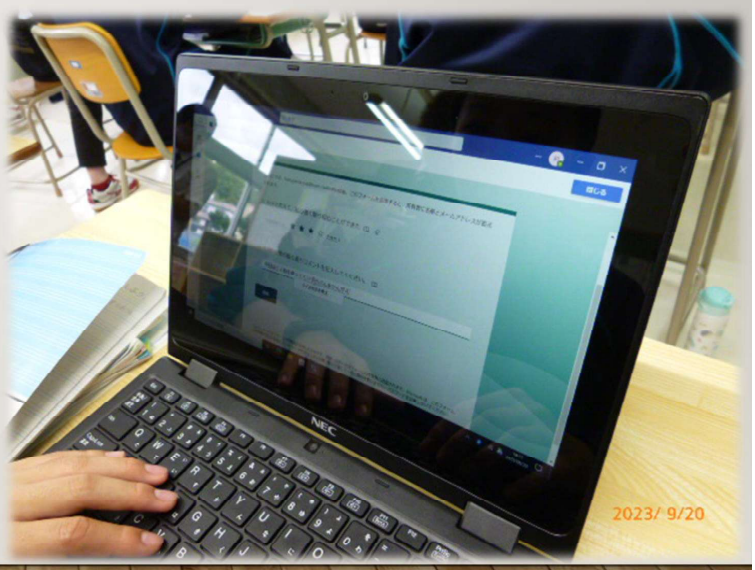
【Note】

1	いて聞いたり質問したりすることができる。	
2	自分の好きなキャラクターや有名人について伝え合うことができる。	
3	文化や言葉、食べ物などについて知るために、たずねることができる。	
4	人についてたずねたり答えたりすることができる。	
5	☆ 持ち主についてたずねることができる。	
6	好きなキャラクターや人を工夫して紹介しよう！	
7	日本についてよりよく知ってもらうためのクイズを作ろう！	
8	人や文化について説明する英文を作成しよう	

Reflection

②９月２０日　研修講座「学習指導」（授業改善）

授業実践（蘭越中学校1年）



②９月２０日　研修講座「学習指導」（授業改善）

① Greeting
Warm Up
② Oral Introductio
モデル提示
③ 課題提示
④ 自力解決
⑤ グループ交流
⑥ 全体交流
⑦ まとめ
⑧ 振り返り
（⑨ 個別学習）

本時の目標	好きなキャラクターや人を工夫して紹介しよう！

September 20th
Wednesday
Sunny

Today's Goal：好きなキャラクターや人を工夫して伝えよう！

自力解決

Example　Whose ca

Do you kn

He is Mar

He can ju

主体的な学び	対話的な学び	
②モデル提示により見通しを持たせる	⑤ペアや班で考える	④知識より
④粘り強く取り組む	⑥学級全体で考える	
⑧自己の学習活動を振り返り次につなげる		

本時の評価について（ルーブリック）　※記録に残す評価の２観点のみ

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A評価	代名詞や疑問詞の用法を用いて、相手に紹介するための英文を正確に作成することができる。	代名詞や疑問詞の用法を用いて、相手に紹介するための英文を正確に作ろうとしている。
B評価	代名詞や疑問詞の用法を使って、場面や状況に応じた英文を作成することができる。	代名詞や疑問詞の用法を使って、場面や状況に応じた英文を作ろうとしている。

②9月20日　研修講座「学習指導」（授業改善）

協議・交流

- 授業の流れ　⇒　隣の子に聞きながら解決していく授業展開
  自然と話すことができる学級の環境
- 単元計画の作成　⇒　児童・生徒に寄り添った単元の終末
  「誰に対してか」目的意識をはっきりさせる
- ＩＣＴの活用　⇒　短時間でも使用し、積み重ねることで有効なツールになる

②9月20日　研修講座「学習指導」（授業改善）

受講者からの声…自身の課題解決に向けた内容

○板書型指導案
- 日々の授業で使って上で授業改善に繋がる

○導入の方法
- 子供達の意欲に繋がるアイデア、しかけ
- テンポ良く、活動の量が多い導入の工夫

○交流について
- 自力解決の中で周りに気軽に話を聞きながら進め、思考を広げていくことも大切

○ICTの活用
- 意欲づけの繋がり、学習の振り返りの蓄積にICTの活用が有効

○単元計画
- 単元の終末に身近な設定を取り入れることは、子供達が思考していくことに有効

検証授業について

11月17日(金)実施
　寿都町立寿都小学校　２年・６年
　２年　森正樹　　教諭　算数科
　６年　松井宏剛　教諭　国語科

検証授業について

検証テーマ

「学びに向かう力」を育成するための授業改善

4 検証授業について

検証の視点

1. 単元をつらぬく課題が設定された単元計画の作成
2. 交流の工夫
3. ICTの効果的な活用

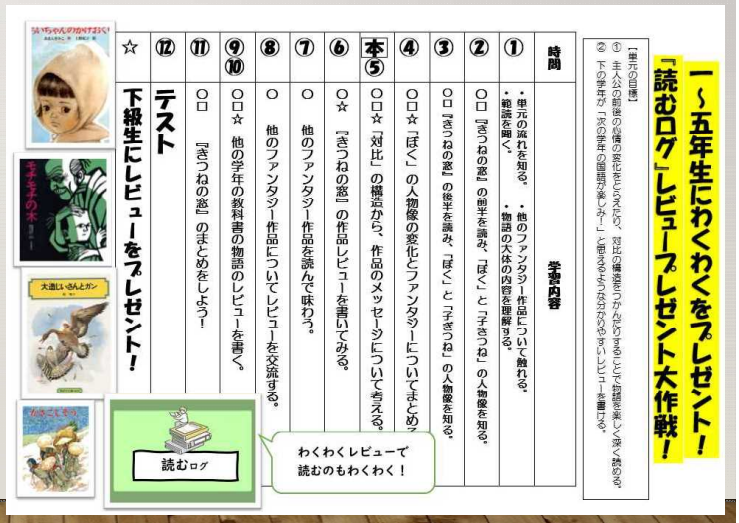
単元全体を貫く課題の提示（ゴール目標）

2年算数		単元名　九九ピ〇ミンで、たおせラスボス〇〇〇！
単元の目標		○「一つ分がいくつ分＝全部の数」という、かけ算のしくみがわかり、九九が使える。 □かけ算の計算のしかたを考えたり、数のきまりを見つけたりすることができる。 ☆九の段の答の数や計算のしくみに、かけ算のしくみ・でかいにひろがる。
時間		学しゅう内よう
1		ピ〇ミンをあつめよう！ 九九の表に書いてみよう〇
エリア1	2	ピ〇ミンたちがやってきた！ 6のだんのもとめ方は？〇□
	3	レベルをあげよう！ 6のだんをマスターしよう！〇
	4	中ボスとバトル！①
エリア2	5	他のピ〇ミンたちもあつまってきた！ 7のだんのもとめ方は？　〇□
	6	レベルをあげよう！ 7のだんをマスターしよう！〇
	7	中ボスとバトル！②
エリア3	8	どちらがおおいかな？ 8のだんのもとめ方は？〇□
	9	レベルをあげよう！ 8のだんをマスターしよう！〇
	10	中ボスとバトル！③

著作権の都合により掲載いたしません。教室内の単元計画をご覧ください！！

エリア4	11	おたからをはこんでいます 9のだんのもとめ方は？〇□
	12	レベルをあげよう！ 9のだんをマスターしよう！〇
	13	中ボスとバトル！④
14		ピ〇ミンへかんしゃのしるし 1のだんをマスターしよう！〇
15		うちゅう船がいくつぶん？ 「倍」をつかって考えよう〇
16		かけ算のもんだいを作ろう！〇☆
17		ガソリンはたりるかな？ 九九がつかえない！？□☆
18		これまであつめたピ〇ミンで ラスボス「〇〇〇」とバトル！☆
19		まとめの学しゅう〇
20		テストの時間です！

著作権の都合により掲載いたしません。教室内の単元計画をご覧ください！！

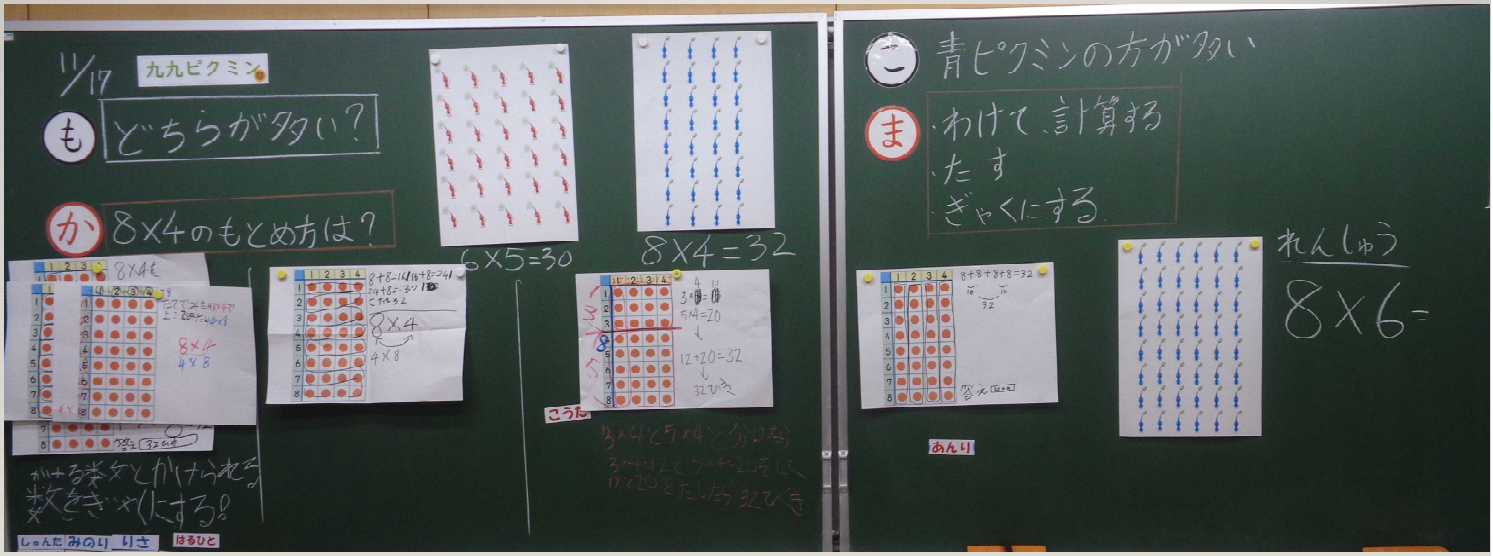


一～五年生にわくわくをプレゼント！
「読むログ」レビュープレゼント大作戦！

【単元の目標】
① 主人公の前後の心情の変化をとらえたり、対比の構造をつかんだりすることで、物語を楽しく読み深める。
② 下の学年が「次の学年の物語が楽しみ！」と思えるような分かりやすいレビューを書ける。

	時間	学習内容
	①	・単元の流れを知る。 ・他のファンタジー作品について触れる。 ・範読を聞く。 ・物語の大体の内容を理解する。
	②	○□『きつねの窓』の前半を読み、「ぼく」と「子ぎつね」の人物像を知る。
	③	○□『きつねの窓』の後半を読み、「ぼく」と「子ぎつね」の人物像を知る。
	④	○□☆「ぼく」の人物像の変化とファンタジーについてまとめる。
本	⑤	○□☆「対比」の構造から、作品のメッセージについて考える。
	⑥	○☆『きつねの窓』の作品レビューを書いてみる。
	⑦	○　他のファンタジー作品を読んで味わう。
	⑧	○　他のファンタジー作品についてレビューを交流する。
	⑨⑩	○□☆　他の学年の教科書の物語のレビューを書く。
	⑪	○□　『きつねの窓』のまとめをしよう！
	⑫	テスト
☆		下級生にレビューをプレゼント！

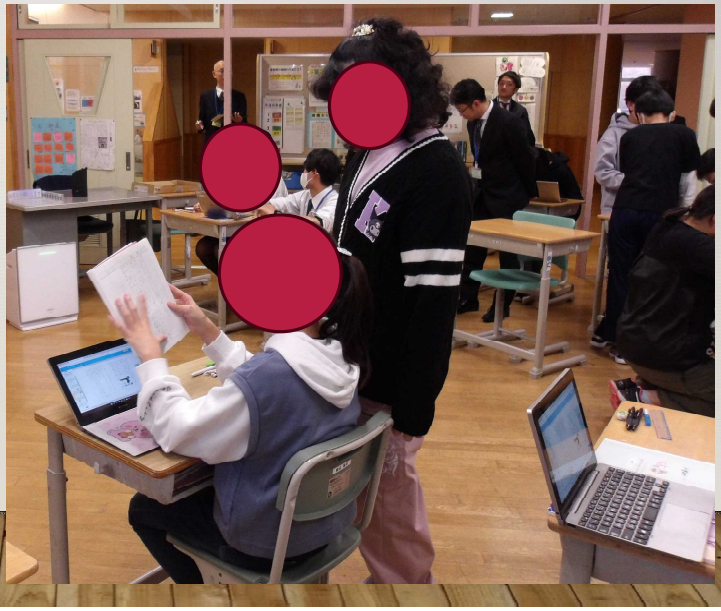
意欲が持てる本時の課題提示



意欲が持てる本時の課題提示

交流の工夫

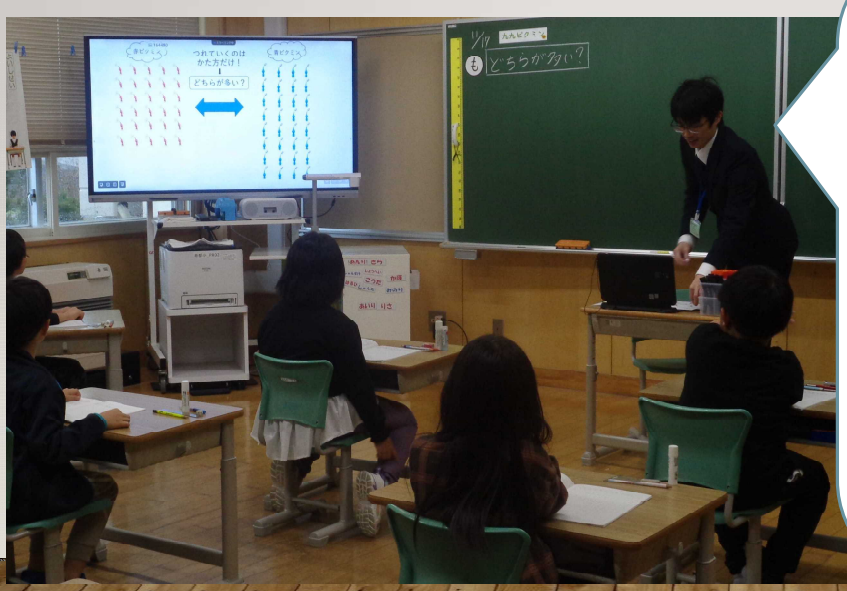
交流の工夫



交流の工夫

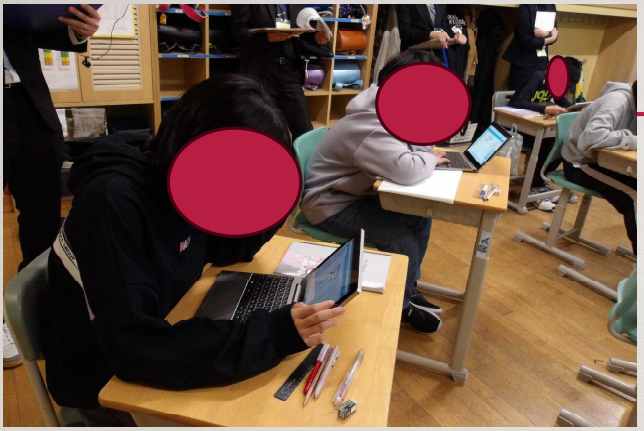
研究において目指す子ども像（具体）	低学年	中学年	高学年
①「～～たい！」という思いを持ちながら、自分に必要な学習を考え、自分らしく学ぶことができるようになったか。	・授業中に先生が伝えた「やるべきこと」を自分から進んでやることができる。	・自分のやるべきことが終わった後に、何をすればよいか考えて行動している。	・自分のやるべきことが終わった後に、クラスのためや自分のためになる行動を考えて行動している。
②見通しを持って学習に臨み、自分自身の学習の調整に活用することができたか。	・次の時間にどんなことをやるのかを考えたり、単元のゴールににについて考えたりしている。	・単元計画を見ながら、「次の時間に向けて」や「単元のゴールに向けて」のふりかえりを書いている。	・中学年と同様。 ・自分に必要な自主学習を考えたり、授業中の学習方法を工夫したりしている。
③自分自身の考えを自分なりの方法で表現することができるようになったか。また、表現する方法の選択肢を増やしていたか。	・授業中に自分の考えを表現することができる。	・授業中に当てられたときに、自分の言葉で考えを表現することができる。（教科の言葉） ・友達との交流で自分の考えを表現している。	・授業中に適切な表現方法を選択し、自分の言葉で考えを伝えることができる。 （教科の言葉・比較・追加・類推・比喩など）

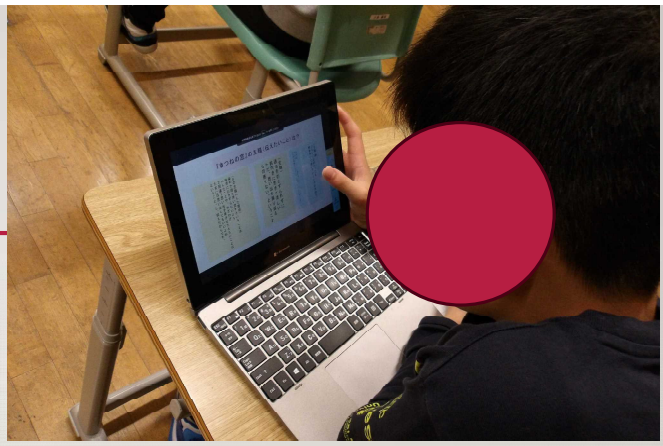
ICT機器の効果的な活用

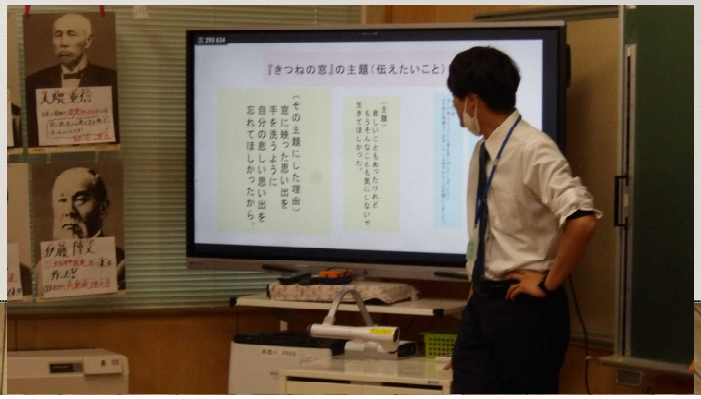


物語風の単元の進行を子ども達に伝え、意欲を持たせるためのアニメーションの活用

ICT機器の効果的な活用







個別最適
深い学び

検証の視点

1. 単元をつらぬく課題が設定された単元計画の作成
2. 交流の工夫
3. ICTの効果的な活用

管内各校への提案・発信
さらなる研究推進

（１１）月（１７）日（金）曜日　第（２）学年　教科（ 算数 ）　単元名（ かけ算九九づくり ）【 Ⓐ B 】型

本時の目標　既習のかけ算を活かして、８の段の答えの求め方を考えることができる（思考・判断・表現）

① ICTによる導入

② ６×５の図（既）と８×４の図を提示どちらが多いか

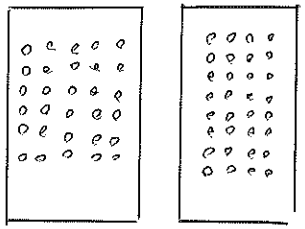
③ 課題確認

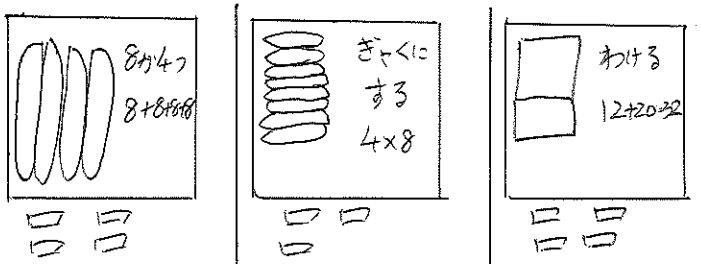
④ 自力追求・小交流
→アレイ図配付
※アレイ図を活用して、８の段が未習の状態でどのように答えを出すか

11/17 九九ピクミン

も どちらがタクさい？

か 8×4のもとめ方は？

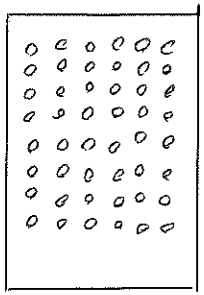




こ 青ピクミンの方がタクさい

ま
・たす
・ぎゃくにする
・わけて、あわせる

う



れんしゅう
8×6

⑤答え

⑥全体交流

⑦まとめ

⑧深める
8×6

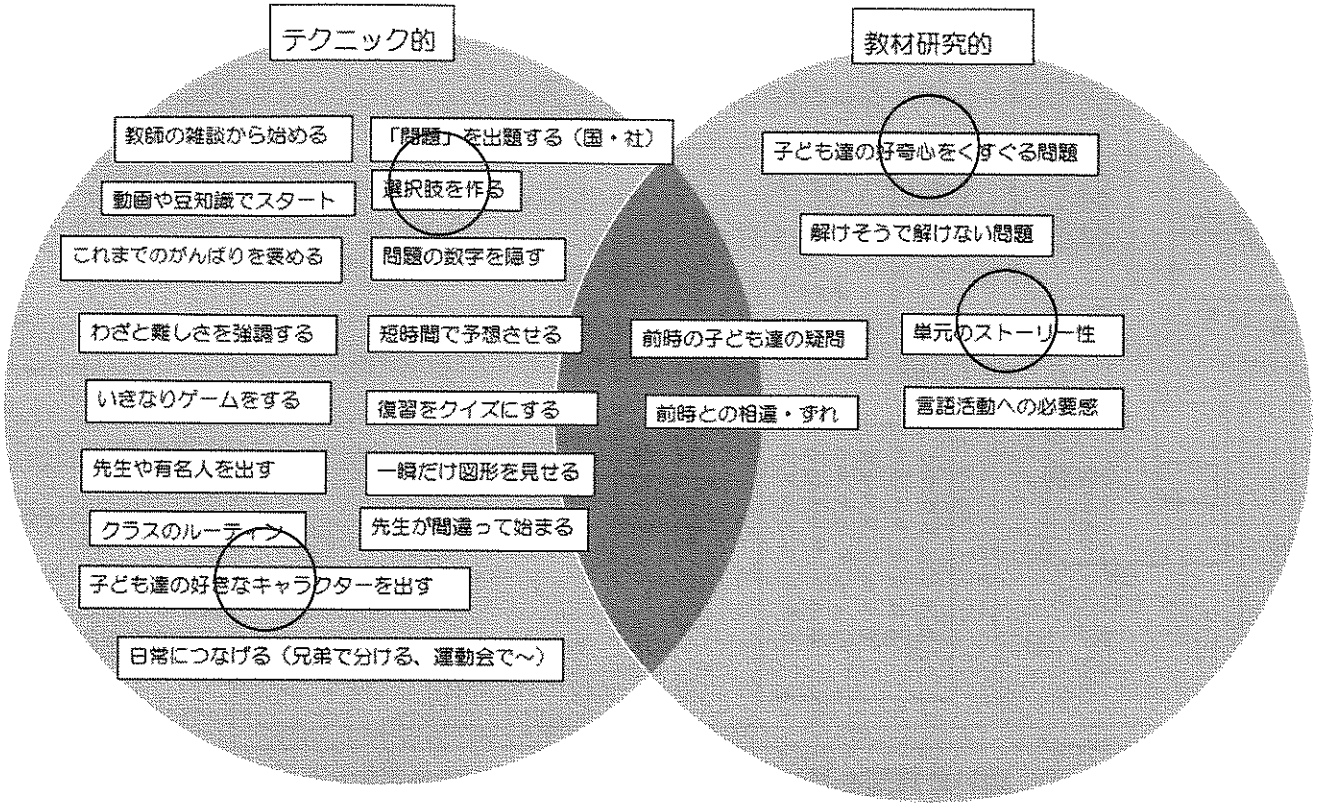
⑨振り返り

教師の全体交流３か条　① 子ども達に発言を復唱してもらいます。　② 開いた質問を増やします。　③ 全体交流の始めの発問に力を入れます。

単元(言語活動・最後の時間)で目指す子ども像	九九の計算を素早く正確にできる。 乗法の性質を理解し、日常生活や学習に活用することができる

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A評価 （学びの価値づけ）	九九を素早く確実に計算できる。④⑦⑩⑬ 乗法のきまりをつかって答えを求めることができ、日常生活や学習で活用できる。①③⑥⑨⑫	乗法の答えを求める方法を考え、計算を工夫しながら、アレイ図やノートに複数の方法で表せている。②⑤⑧⑪⑮～⑰	自分に合った方法を考えながら、考えを図や式、文で表そうとしている。 発展的な問題にもあきらめずに取り組んでいる。⑯⑰
B評価 （評価基準）	九九の計算が確実にできる。④⑦⑩⑬ 乗法のきまりをつかって答えを求めることができる。①③⑥⑨⑫	乗法の答えを求める方法を考え、アレイ図やノートに表せている。②⑤⑧⑪⑮～⑰	自分の考えを図や式、文で表そうとしている。発展的な問題に挑戦している。⑯⑰

本時の導入　【　日常化　　ゲーム化　　クイズ化　　そのほか（　　）】



研究において目指す子ども像（具体）	低学年	中学年	高学年
①「～～たい！」という思いを持ちながら、自分に必要な学習を考え、自分らしく学ぶことができるようになったか。	・授業中に先生が伝えた「やるべきこと」を自分から進んでやることができる。	・自分のやるべきことが終わった後に、何をすればよいか考えて行動している。	・自分のやるべきことが終わった後に、クラスのためや自分のためになる行動を考えて行動している。
②見通しを持って学習に臨み、自分自身の学習の調整に活用することができたか。	・次の時間にどんなことをやるのかを考えたり、単元のゴールにについて考えたりしている。	・単元計画を見ながら、「次の時間に向けて」や「単元のゴールに向けて」のふりかえりを書いている。	・中学年と同様。 ・自分に必要な自主学習を考えたり、授業中の学習方法を工夫したりしている。
③自分自身の考えを自分なりの方法で表現することができるようになったか。また、表現する方法の選択肢を増やしていたか。	・授業中に自分の考えを表現することができる。	・授業中に当てられたときに、自分の言葉で考えを表現することができる。（教科の言葉） ・友達との交流で自分の考えを表現している。	・授業中に適切な表現方法を選択し、自分の言葉で考えを伝えることができる。（教科の言葉・比較・追加・類推・比喩など）

寿小流！単元開始までの流れ

□教科書を読み、単元のおおよその流れをつかむ。

□単元計画を作成（活用）する。

□単元計画内に評価計画を作成する。

□データ上の<u>板書型指導案にルーブリック評価を作成し、目指す子ども像を明確にする。</u>

□単元計画を印刷する。

□板書型指導案を単元時数分印刷し、保存する。

□単元終了後、板書型指導を見ながら、評価を入力する。
※形成的評価については毎時間進めるようにする。

※　板書型指導案についてはデータをデスクトップに保存しておくとよいです。

２年算数	単元名　九九ピ〇ミンで、たおせラスボス〇〇〇！
単元の目標	○『一つ分×いくつ分＝全部の数』という、かけ算のしくみがわかり、九九が言える。 □かけ算の計算のしかたを考えたり、数のきまりを見つけたりすることができる。 ☆みの回りの数や計算のもんだいを、かけ算をつかってかいけつできる。

時間		学しゅう内よう
1		ピ〇ミンをあつめよう！ 九九の表に書いてみよう〇
エリア1	2	ピ〇ミンたちがやってきた！ ６のだんのもとめ方は？〇□
	3	レベルをあげよう！ ６のだんをマスターしよう！〇
	4	中ボスとバトル！①
エリア2	5	他のピ〇ミンたちもあつまってきた！ ７のだんのもとめ方は？　〇□
	6	レベルをあげよう！ ７のだんをマスターしよう！〇
	7	中ボスとバトル！②
エリア3	8	どちらがおおいかな？ ８のだんのもとめ方は？〇□
	9	レベルをあげよう！ ８のだんをマスターしよう！〇
	10	中ボスとバトル！③

著作権の都合により掲載いたしません。
教室内の単元計画をご覧ください！！

著作権の都合により掲載いたしません。
教室内の単元計画をご覧ください！！

著作権の都合により掲載いたしません。
教室内の単元計画をご覧ください！！

エリア4	11	おたからをはこんでいます 9のだんのもとめ方は？○□
	12	レベルをあげよう！ 9のだんをマスターしよう！○
	13	中ボスとバトル！④
14		ピ○ミンへかんしゃのしるし 1のだんをマスターしよう！○
15		うちゅう船がいくつぶん？ 「倍」をつかって考えよう○
16		かけ算のもんだいを作ろう！○☆
17		ガソリンはたりるかな？ 九九がつかえない！？□☆
18		これまであつめたピ○ミンで ラスボス「○○○」とバトル！☆
19		まとめの学しゅう○
20		テストの時間です！

著作権の都合により掲載いたしません。
教室内の単元計画をご覧ください！！

著作権の都合により掲載いたしません。
教室内の単元計画をご覧ください！！

著作権の都合により掲載いたしません。
教室内の単元計画をご覧ください！！

11月17日　（　金　）曜日　第（6）学年　　教科（　国語科　）　　単元名（　きつねの窓　）【　Ⓐ　B　】型

本時の目標　物語における「窓」に注目し、教科書の叙実を基に理由を明確にして物語の主題をまとめている。

①前時の復習
レビューに必要な物は？
②問題
「いい窓？悪い窓？」
③課題
④音読（2分）
⑤個人思考（3分）
・いい窓と悪い窓の理由を考える
⑥小集団交流（5分）

「読むログ」レビュープレゼント大作戦
『きつねの窓』

問　「ぼく」にとっていい窓？悪い窓？

課　「きつねの窓」について考えよう

いい窓
・思い出が見れる
き　死んだ母親
ぼ　妹・昔の家
・なつかしさ
→最後はぼひきずっていない

悪い窓
・頼ってしまう
・鉄砲の代わりとして
→仕事にも影響が…。
きつねの策略？
・つらいことを思い出してしまうかも
→今はもう会えないから

（最終的に…）
洗い流してしまった「ぼく」

☆この作品の主題（伝えたいこと）は？

スカイメニューに記入＆交流
・今はないものは気にせず、生きていくことが大切

ま　（主題）

ふ

⑦全体交流（5分）
・何が見えた？
・見えた方がいい？
・もし「ぼく」が洗い流さなかったらどうなっていた？
⑧深める→交流
「ぼく」が洗い流してしまった描写を基に作者の意図（主題）を考える。
⑨まとめ（児童が考えた主題）
⑩振り返り

教師の全体交流3か条　①　子ども達に発言を復唱してもらいます。　②　開いた質問を増やします。　③　全体交流の始めの発問に力を入れます。

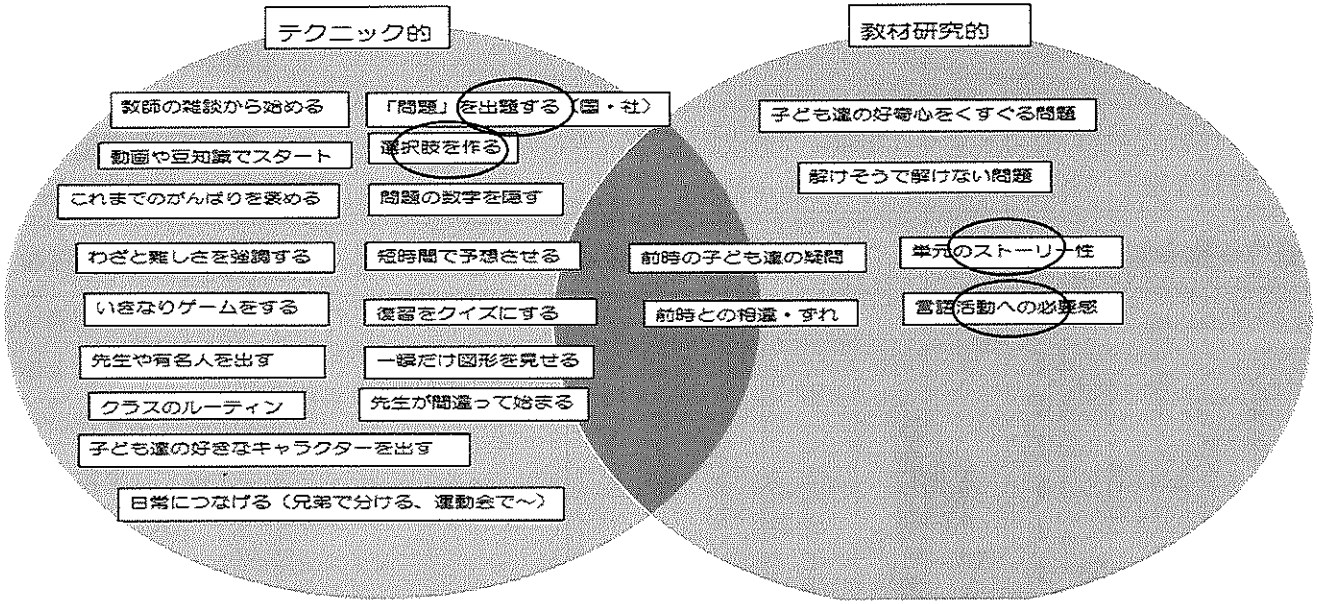
単元（言語活動・最後の時間）**で目指す子ども像**	①　物語において、対比の構造や人物の心情の変化を捉え、主題を自分なりに考えながら、読むことができる。（技・主） ②　言語活動において、作品を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが出来る。（書・読：思）

単元の評価規準	**知識・技能**	**思考・判断・表現**		**主体的に学習に取り組む態度**
		読むこと	**書くこと**	
A評価 （学びの価値づけ）	・対比構造や登場人物の心情の変化などの表現の工夫に気づき、物語の主題を読み取ることができる。（②～⑥） ・教科書や自分の知っている語彙の中から、伝える相手に応じた適切な語彙を選んでレビューを書いている。（言語活動）	作品の全体像を基に、具体的に想像しながら自分の考えをノートに書いている。（②、③、④、⑤）	作品の内容を基に、目的や意図に応じて書き表し方を工夫し、レビューが書ける。（⑥・⑩）	・言語活動において、伝える相手のことを考えながら、意欲的にレビューを書いている。 ・見通しをもって、友達と交流したり、話し合ったりして、物語の内容を捉えている。（②～⑥）

検証授業　二

B評価 （評価基準）	・対比構造や登場人物の心情の変化に気づくことができる。（②～⑥） ・教科書の語彙や自分の知っている語彙を使って、レビューを書いている。（言語活動）	作品の全体像を基に自分の考えをノートに書ける。（②、③、④、⑤）	作品の内容を基に、レビューが書ける。（⑥・⑩）	・言語活動において、意欲的にレビューを書いている。 ・友達と交流したり、分からないことを聞いたりしている。（②～⑥）

本時の導入　【　日常化　　ゲーム化　　クイズ化　　そのほか（　　）】



研究において目指す子ども像（具体）	低学年	中学年	高学年
①「～～たい！」という思いを持ちながら、自分に必要な学習を考え、自分らしく学ぶことができるようになったか。	・授業中に先生が伝えた「やるべきこと」を自分から進んでやることができる。	・自分のやるべきことが終わった後に、何をすればよいか考えて行動している。	・自分のやるべきことが終わった後に、クラスのためや自分のためになる行動を考えて行動している。
②見通しを持って学習に臨み、自分自身の学習の調整に活用することができたか。	・次の時間にどんなことをやるのかを考えたり、単元のゴールにについて考えたりしている。	・単元計画を見ながら、「次の時間に向けて」や「単元のゴールに向けて」のふりかえりを書いている。	・中学年と同様。 ・自分に必要な自主学習を考えたり、授業中の学習方法を工夫したりしている。
③自分自身の考えを自分なりの方法で表現することができるようになったか。また、表現する方法の選択肢を増やしていたか。	・授業中に自分の考えを表現することができる。	・授業中に当てられたときに、自分の言葉で考えを表現することができる。（教科の言葉） ・友達との交流で自分の考えを表現している。	・授業中に適切な表現方法を選択し、自分の言葉で考えを伝えることができる。 （教科の言葉・比較・追加・類推・比喩など）

寿小流！単元開始までの流れ

□教科書を読み、単元のおおよその流れをつかむ。

□単元計画を作成（活用）する。

□単元計画内に評価計画を作成する。

□データ上の板書型指導案にルーブリック評価を作成し、目指す子ども像を明確にする。

□単元計画を印刷する。

□板書型指導案を単元時数分印刷し、保存する。

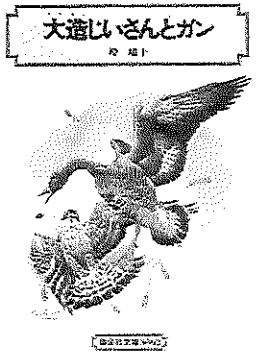
□単元終了後、板書型指導を見ながら、評価を入力する。
※形成的評価については毎時間進めるようにする。

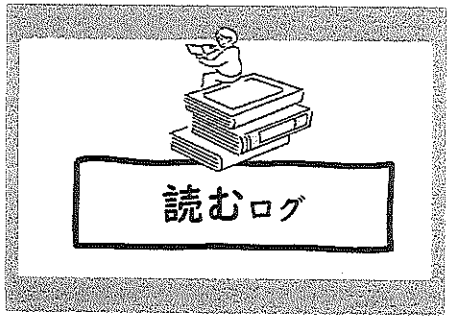
※　板書型指導案についてはデータをデスクトップに保存しておくとよいです。

一～五年生にわくわくをプレゼント！
『読むログ』レビュープレゼント大作戦！

【単元の目標】
① 主人公の前後の心情の変化をとらえたり、対比の構造をつかんだりすることで物語を楽しく深く読める。
② 下の学年が「次の学年の国語が楽しみ！」と思えるような分かりやすいレビューを書ける。

時間	学習内容
①	・単元の流れを知る。 ・他のファンタジー作品について触れる。 ・範読を聞く。 ・物語の大体の内容を理解する。
②	○□『きつねの窓』の前半を読み、「ぼく」と「子きつね」の人物像を知る。
③	○□『きつねの窓』の後半を読み、「ぼく」と「子きつね」の人物像を知る。
④	○□☆「ぼく」の人物像の変化とファンタジーについてまとめる。
本⑤	○□☆「対比」の構造から、作品のメッセージについて考える。
⑥	○☆ 『きつねの窓』の作品レビューを書いてみる。
⑦	○ 他のファンタジー作品を読んで味わう。
⑧	○ 他のファンタジー作品についてレビューを交流する。
⑨⑩	○□☆ 他の学年の教科書の物語のレビューを書く。
⑪	○□ 『きつねの窓』のまとめをしよう！
⑫	**テスト**
☆	**下級生にレビューをプレゼント！**





わくわくレビューで
読むのもわくわく！

【検証】　寿都小 ２年算数科 「かけ算の九九づくり」
　　６年国語科 「きつねの窓」　　の実践から

検　証 テーマ	「学びに向かう力」を育成するための授業改善
検証の 視　点	(1)評価計画の作成（授業における「目指す子どもの像」の明確化） (2)全体交流の整理（教師の３か条の充実） (3) 単元計画の作成・共有・活用 (4) 導入の工夫（ゲーム化・クイズ化・日常化）

■各検証の視点での考察

(1) 評価計画の作成（授業における「目指す子どもの像」の明確化）

〇単元で目指す資質・能力が明確に分かっており、子どもたちの目指すべき姿が見える形になっている。

(2)　全体交流の整理（教師の３か条の充実）

〇ICTを活用して情報を整理することで、児童の考えを深めることができていた。

〇ICT を活用することで、自然と交流をうんでいた。学習の最適化が図られていた。

〇全体交流で意図的に焦点化を図っていくことが大切で、深めるための発問をより吟味する必要がある。

(3) 単元計画の作成・共有・活用

〇単元計画が明確にあることで、児童と学習の内容を共有することができていた。

〇単元の学習問題が子どもたちにとって、楽しいものになっていて、「取り組みたい！」という思いが生まれ、それまでの活動を充実させていた。

〇単元計画があることで、より振り返りが充実し、自己の学びの充実がはかることができる。

(4) 導入の工夫（ゲーム化・クイズ化・日常化）

〇選択肢がある中で導入が行われていた。児童も自分の考えが正しいか考えたくなり、意欲の高まりが感じられた。

■今後に向けて

・単元で目指す資質・能力を具体的に示す単元計画の作成

・子どもたちとゴールを共有し、学習計画を子ども自らが作れるように単元を構成していくことが大切。

・単元計画が振り返りの充実につながり、自己の学びの調整につながっていくため、より取り入れていく。

・振り返りが本時の目標や単元の目標とリンクしたものになるように、毎時間でなくとも意図的に取り入れ、自己の学習を振り返る場を設定する。

Ⅲ　指導案バンクについて

後志教育研修センター

指導案バンクのお知らせ

後志教育研修センターでは、後志管内の先生方に向けて、授業力の向上や校内研究の活性化を目指し、指導案バンクを始動しました。

明日の授業づくりのヒントとなるように、学習指導案や板書指導案、単元計画などを One Drive（クラウドフォルダ）にまとめました。

ぜひ、管内の先生方に指導案バンクを活用していただきたいと思います。また、先生方から指導案の募集もしています。よろしくお願いいたします。

指導案コンテンツの閲覧方法

①クラウドフォルダへアクセス

☆下記のアドレスから後志教育研修センターのフォルダ内にある小学校・中学校に進んでいただき、閲覧をしてください。

https://siribesi-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/skc_siribesi_onmicrosoft_com/EuNfHewiwBlLu5NDqLq21CwBrtFuRR3jaRIQ6-cC64M4ig?e=oeuGt4

☆右の QR コードからも閲覧が可能です。

②校種を選択する。

☆まず、小学校・中学校・特別支援の中から校種を選びます。

③教科を選択する。

☆次に、各教科の中から探している教科を選択します。

④学年を選択する。

☆そして、探している学年を選択し、クリックします。

⑤単元を選択する。

☆学年をクリックすると、単元名が出てくるので、閲覧したい単元を選択します。

～単元計画～

雪は新しいエネルギー・学習計画（六時間）

学習のめあて

筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう

一　筆者の主張を、キーワードをもとに読み取ろう。

二　雪はエネルギーとはどういうことだろう。

三　雪エネルギーの利用の具体例を読み、筆者の主張に対して考えを持とう。

四　雪エネルギーの可能性と課題を読み取ろう。

五　筆者の説明の仕方に注目し、雪エネルギーについて自分の考えをもち、話し合おう。

六　テスト

図1 再生可能エネルギー

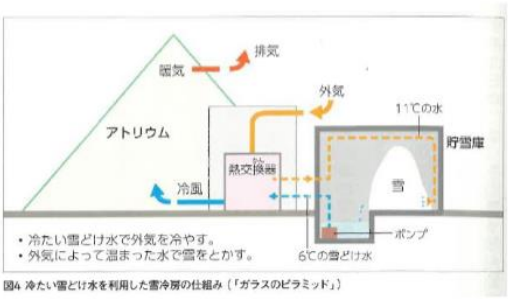


図4 冷たい雪どけ水を利用した雪冷房の仕組み（「ガラスのピラミッド」）

「きつねの窓」書評を書こう

～babazon レビューランキング～

単元の目標＝これができるようになる！

◎いろいろな言葉を知り、考えて使うことができる。

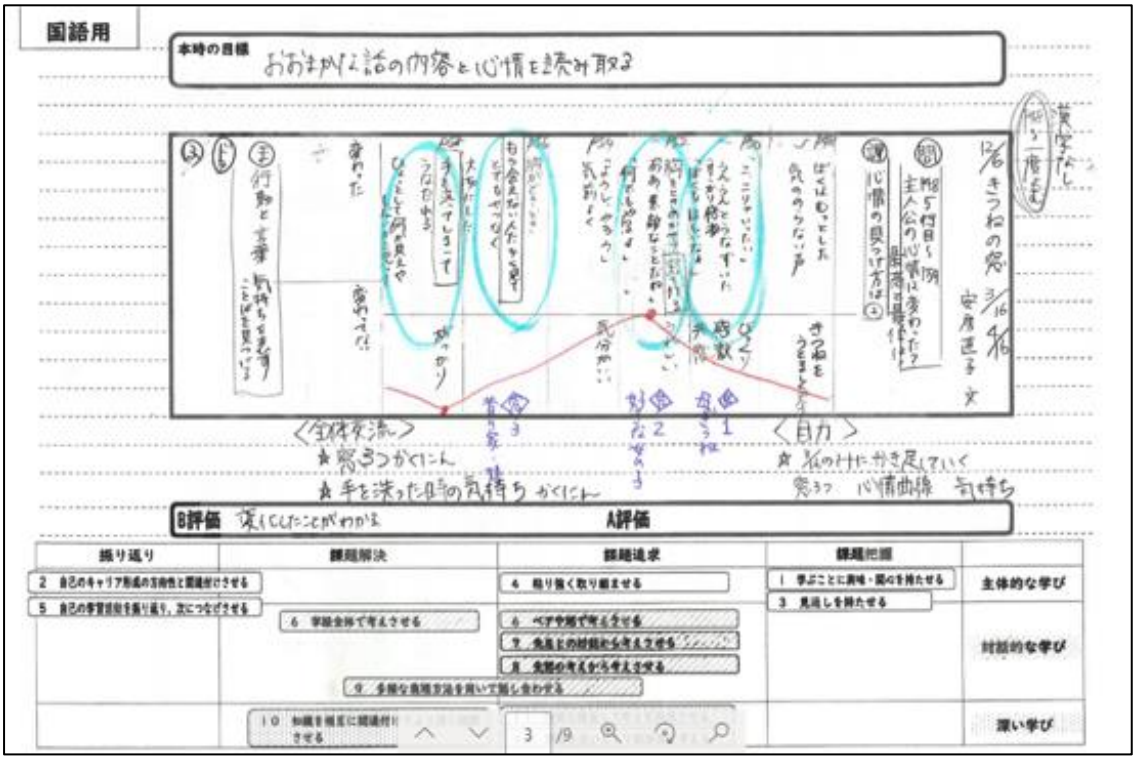
◎物語の全体をとらえ、人物像や表現について読むことができる。

◎文章を読んで理解したことをもとに、自分の考えを書くことができる。

◎事実と感想、意見とを区別して書くことができる。

時間	学習内容
1	言葉の意味は？
2	主人公の[illegible]の心情は変わった？①
3	主人公の[illegible]の心情は変わった？②
4	主人公の[illegible]の心情は変わった？③
5	窓に映った物は全部でいくつ？
6	このお話の「窓」＝「　　」あなたは窓で何が見たい？
7	正しい敬意の表し方はどれ？
8	正しい敬意の表し方はどれ？
9	テスト
10	あなたなら、窓でどのような物を見たい？大発表！
11	読書感想文・ポップ・帯・書評はどれ？
12	書評の書き方のこつ「6つ」がわかるか？
13・14・15	babazon 書評レビューを書こう。
16	レビューを評価しよう。

～板書型指導案～



◇学習指導案

国語科学習指導案（略案）

日　時：令和３年10月26日（火）　４校時
場　所：倶知安町立倶知安中学校　３年Ｄ組
生　徒：３年Ｄ組
　　男子14名　女子16名　計30名
授業者：

１．単元名（教材名）
多角的に分析して書こう　説得力のある批評文を書く

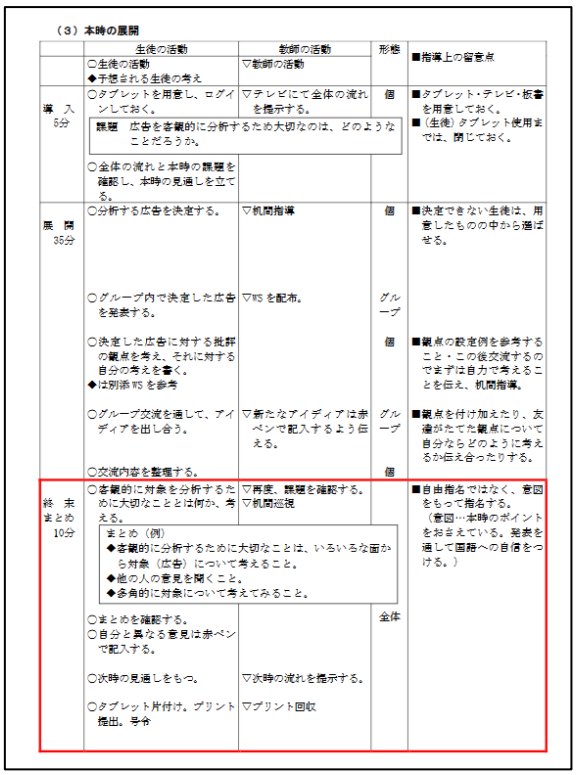
２．単元の目標
・具体的な題材を基に、その価値などについて評価することができる。
・表現のしかたを考えたり資料を引用したりして、説得力のある文章を書くことができる。
・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。**【情報（２）ア】**	①「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。**【Ｂ（１）イ】** ②「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。**【Ｂ（１）ウ】**	①粘り強く表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりし、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。**【学びに向かう力、人間性等】**

４．単元の指導計画

時間	学習内容と主な活動	主な評価の観点	
		評価する内容	評価方法
1	○学習の見通しをもち、題材を選ぶ。 ①学習の目標と流れを確認し、学習の見通しをもつ。 ②批評文について知り、題材を選ぶ。		
2 （本時）	○観点を決めて分析する。 ③選んだ題材を発表する。 ④観点を設定し、問いを考え、自分なりに答えていく形で分析する。	【知識・技能】①	ワークシート
3	○構成を考える。批評文を書く。 ⑤分析を基に、説得力のある構成を考える。 ⑥引用する資料を選び、出典を明確にする。	【思考・判断・表現】① 【思考・判断・表現】②	ワークシート
4	○批評文を書く。学習を振り返る。 ⑦六百字程度で批評文を書く。 ⑧書いた批評文を読み合い、意見を交流する。	【思考・判断・表現】② 【主体的に学習に取り組む態度】	観察 ワークシート



（３）本時の展開

	生徒の活動	教師の活動	形態	
	○生徒の活動 ◆予想される生徒の考え	▽教師の活動		■指導上の留意点
導　入 5分	○タブレットを用意し、ログインしておく。 課題　広告を客観的に分析するため大切なのは、どのようなことだろうか。 ○全体の流れと本時の課題を確認し、本時の見通しを立てる。	▽テレビにて全体の流れを提示する。	個	■タブレット・テレビ・板書を用意しておく。 ■（生徒）タブレット使用までは、閉じておく。
展　開 35分	○分析する広告を決定する。	▽机間指導	個	■決定できない生徒は、用意したものの中から選ばせる。
	○グループ内で決定した広告を発表する。	▽MS を配布。	グループ	
	○決定した広告に対する批評の観点を考え、それに対する自分の考えを書く。 ◆は別添 MS を参考		個	■観点の設定例を参考すること・この後交流するのでまずは自力で考えることを伝え、机間指導。
	○グループ交流を通して、アイディアを出し合う。	▽新たなアイディアは赤ペンで記入するよう伝える。	グループ	■観点を付け加えたり、友達がたてた観点について自分ならどのように考えるか伝え合ったりする。
	○交流内容を整理する。		個	
終　末 まとめ 10分	○客観的に対象を分析するために大切なこととは何か、考える。 まとめ（例） ◆客観的に分析するために大切なことは、いろいろな面から対象（広告）について考えること。 ◆他の人の意見を聞くこと。 ◆多角的に対象について考えてみること。	▽再度、課題を確認する。 ▽机間巡視		■自由指名ではなく、意図をもって指名する。 （意図…本時のポイントをおさえている。発表を通して国語への自信をつける。）
	○まとめを確認する。 ○自分と異なる意見は赤ペンで記入する。		全体	
	○次時の見通しをもつ。	▽次時の流れを提示する。		
	○タブレット片付け。プリント提出。号令	▽プリント回収		

【第３章】

研究の
成果と課題

学習指導に関する調査研究　今年度の研究の成果と次年度に向けた課題

１.「《視点１》学びに向かう力を育成するための授業改善」の成果

●板書型指導案

・研修センターで推奨している板書型指導案について、研修講座　学習指導（授業づくり、授業改善）の中で、受講者に伝えることができた。

●研修講座の中で授業実践公開

・今年度は、研修講座　学習指導（授業づくり、授業改善）の量講座で、研修センターとして発信していきたい内容を授業実践を通して、推進することができた。

●検証授業

・今年度は、１本検証授業が行うことができた。

・寿都町立寿都小学校の研修で行われている

１．単元をつらぬく課題が設定された単元計画の作成

２．交流の工夫

３．ICT の効果的な活用

を中心に授業を参観した。クラス全体が主体的に学習に臨んでおり、効果的であることが事後研修の中でも確認できた。

２.「《視点２》実践的な指導力の向上を図るための教職員研修の工夫・改善」の成果

●集合形式の研修講座

・校内研修の講座を行った。その中で、校内研修にかかわる課題や悩みなどを出してもらい、先生方同士で交流する中で、解決策やその糸口をつかんでもらうことができた。

●指導案バンク

・今年度は、昨年度公開した指導案をより後志管内の先生方がより使いやすい形を目指し、整理を行った。今後も指導案を収集し、発信していきたい。

３．次年度に向けての課題

●新研修スタートの１年

・次年度は新たな研究のスタートとなり、研究主題・研究仮説を立て、研究を進めていく。

・全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指し、授業の構想や実践事例を情報発信していく。

あ　と　が　き

令和５年５月、ついに新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行されました。令和２年２月の全道一斉休校からの激動の約３年間が終わり、各学校においても少しずつ「日常」を取り戻しつつあることと思います。

当センターでも、４年次研究の最終年度となる今年度、センター所員が担当する研修講座において、集合での授業実践を行い、これまでに研修を進めてきた「学びに向かう力の育成」について、発信することができました。また、寿都町立寿都小学校を会場に検証授業では、板書型指導案の活用だけではなく、「単元計画の作成」「ICT の効果的な活用」など、これからの研究においてもキーワードとなる内容について、検証を進めることができました。

次年度からはまた新たな研修主題を立てて、調査研究を行います。今年度、より活用しやすい形を目指した指導案バンクも活用しながら、取組を発信し、管内の教職員の授業力の向上に少しでも寄与できる研修センターを目指します。

末筆になりましたが、本研究紀要作成にあたり、お力添えいただきました研究委員の先生方をはじめ、教育関係機関の皆様に心より感謝申し上げます。

令和６年３月

研　究　委　員

学習指導に関する調査研究委員会

研究委員長	千葉　慎也	（寿都町立寿都小学校	教諭）
副委員長	中村　かずえ	（余市町立黒川小学校	教諭）
委　　員	菊地　勇人	（京極町立京極中学校	教諭）
	山本　啓太	（岩内町立岩内第一中学校	教諭）
	菊地　洋平	（蘭越町立蘭越中学校	教諭）
	板垣　雄介	（岩内町立岩内第二中学校	主幹教諭）
	大塚　葉月	（倶知安町立倶知安小学校	教諭）
	橋谷　紘彰	（倶知安町立東小学校	教諭）
	工藤　大樹	（泊村立泊小学校	教諭）
	輪嶋　隼	（蘭越町立蘭越小学校	教諭）

研究協力員

担当指導主事	岸　依美	（北海道教育庁後志教育局義務教育指導班　指導主事）

研究紀要発行委員会

研修部長	鶴見　卓哉	（岩内町立岩内西小学校	主幹教諭）
研修講座主事	小山　正博	（倶知安町立倶知安中学校	教諭）
調査研究主事	森　拓実	（倶知安町立西小学校	教諭）